

平成 29 年度理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 30 年 1 月から 2 月末にわたり平成 29 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 8 年目の卒業生に当たり、260 名中 230 名から回答があった。回収率は 88.5 %であった。

「Ⅰ．分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 30 年度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ．集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

【数学コース】

数学コース卒業予定者 49 名のうち 47 名から回答があった。アンケートの項目に沿って分析を行い、今後の教育へのフィードバックを述べる。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」では、最も多い回答は「友人との出会い」で 68% である。過去 5 年のアンケートでも常に最多の回答である。しかし過去 5 年では 70% から 80%を超える数値であったのに対し、今回は 70% を切っている。新しい交友関係の築き方に少し変化が出てきたのだろうか。続くものは昨年と同様に「研究室での卒研ゼミ」で 63% である。ただし昨年度は 2 番目とはいえ満足している学生は 47% であり、一昨年度以前に比べて満足度は低くなっていた。また、もとの水準に戻ったようだ。また「授業」の満足度は 49% で 3 番目となっている。昨年度は 34% で、一昨年度は 48% と少し改善されたようだ。また「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」では、最も多い回答は「課外活動」で 32% で、過去 5 年間と変わっていない。ついで「授業」が 21% である。一昨年は 57%、昨年は 36% で減少傾向にある。授業改善アンケートなどを通じて授業改善を進めていかなければならないだろう。

教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると 94% である。これは過去 5 年間も 90% 前後であり、学習環境は問題はないようだ。

就職支援活動については、満足・ほぼ満足を合わせて 87% である。一昨年は 57% 昨年は 70% だったので、少しずつ改善されているようだ。

ボランティア活動には 30% の学生が参加している。過去 2 年は 40% を超えていたので、若干参加する学生の割合が減ったようである。しかし、参加した学生全員がその活動に満足・ほぼ満足している。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は、20～29 とした学生が最も多く 30% であり、それについて 40 以上とした学生は 28% であった。19 以下の学生の割合は 26% である。満足した理由は「親

切で丁寧であった」と「専門分野の実力がついた」がほぼ同じでそれぞれ 64% , 62% となっている。満足できなかった授業の数は、9 以下とした学生が最も多く 60% であり、ついで 10～19 とした学生が 30% である。満足できなかった理由の最多は「実力がつかなかった」で 43% である。ついで、「不親切でわかり難い授業だった」が 40% となっている。さらに「一方的な押し付け授業だった」が 30% である。昨年度に比べ「不親切でわかり難い授業だった」、「一方的な押し付け授業だった」と感じた学生の割合は 10% 程度減少している。少しは授業改善の効果が現れているかもしれないが、「実力がつかなかった」と感じている学生の割合は変わらないので、さらにわかりやすい授業を行うよう心がける必要があるだろう。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか」の問いには 96% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。また、「専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか」の問いには 89% の学生が「配置されていた」または「概ね配置されていた」と回答している。さらに「教育目標と標準履修モデルが合致しているか」の問いには 87% の学生が「合致していた」または「概ね合致していた」と回答している。これらは昨年度とほぼ一致している。標準履修モデルには問題はないように思える。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 49% である。一方で、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げたい」という要望に対して「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 36% である。ほぼ半数の学生がさらに高度な知識を求めているので、理解に苦勞している学生を考慮しながらも、もう少し高い目標の授業を考える必要があるだろう。

「社会に出て役立つことを授業盛り込んでほしい」という要望に対して、「全くそのとおりである」または「概ねそのとおりである」という回答を合わせると 38% である。今回は数学を学ぶことについての具体的な意見が多いように感じた。「学んでいる内容がどのように利用されているか」、「数学的なことを用いることでどのような分野に貢献できるか、または日常的生活において数学の関わるものがどれだけあるかを知りたい」、「講義を取ること、獲得に近づくような資格があるような場所に取得に関するアドバイスを組み込むことで就職に有利だったり会社で使うようなことがあったりと何かしら社会に出て役立つのではと考えます」、「生活の内でのどのように数学を活かせるか？や実生活に活かせるようなことやってほしい」。これらについて、数学が具体的に日常生活にどのように関わり、利用されているかを授業やセミナーで積極的に話していく必要があるだろう。「発表の場を増やす」、「自分で考える力を身につけること」、「臨機応変に課題へ取り組めること。少しのことでは諦めない根性」なども 4 年のセミナーや卒業研究発表会の指導だけでなく授業で

も指導して行くべきことであろう。「社会人マナー等の授業が欲しかった。(手紙、言葉遣い)」「将来地域の活性に役立つこと」「時事問題について知る考えること」「世の中にはどういった仕事や働き方があるかなど」などは専門教育との関わりは薄いように思える。どのような機会を学生に与えるかは学部教育だけでは難しいように思える。

【成績評価】

成績評価は「適切であった」または「概ね適切であった」の回答の割合が 79% である。昨年度と比べると 10% 近く落ちている。成績評価については注意する必要があると考える。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目数と内容が適切かとの問いには「適切である」または「概ね適切である」の回答を合わせると 91% であった。数学コースの科目については3年次の科目がそれ以前の学年に比べ多すぎるという意見があった。また、他コースの講義で気軽に受けられるものを希望している学生がいた。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切かとの問いには昨年度と同様に一人を除き「適切である」または「概ね適切である」と回答している。ほぼ問題なく機能していると考ええる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

「数学コースは実験とかはないが研究室のようなものがあればもっと集中して研究できたかもしれません。家には他の誘惑が多すぎるから」という意見からもわかるように数学コースでは講義以外に学生が集う機会が少ない。学生研修室があるのだから、そのことをもっとアピールし、使いやすくする必要があるだろう。講義については学生全体を見ながら、もう少し専門性を上げていっても良いのではないかと考える。

【物理科学コース】

平成29年度のアンケートは、卒業予定者25名全員とさらに1名計26名からアンケートが回収された。回収率は実質的に100%であった。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関する回答（複数回答）は、「研究室での卒研やゼミ」が16名ともっとも多く、ついで「友人との出会い」が15名、「授業」と「先生との出会い」とがそれぞれ10名および9名でそれに続いている。これは昨年度までとほぼ同様の傾向といえるが、卒業研究に密接に関係する重要な項目であり、もっと向上させる努力が必要であろう。一方「満足できなかったもの」としては「課外活動」が7名でもっとも多く、「授業」の5名、「親からの自立」の4名が続いた。授業について満足している学

生も多いが一方で不満のある学生もあり，そういう学生への対処も考えていく必要がある。

【教育研究施設に関する感想】

教育研究施設（学習環境）に関しての満足度は，8名が「満足できた」，16名が「ほぼ満足できた」と回答しており，「満足できなかった」という学生はいないため，満足度は非常に高かったことがわかる。これまでの教育研究施設（学習環境）を整えてきた結果といえる。

【就職支援活動の感想】

就職支援活動に関しては，8名が「満足できた」，10名が「ほぼ満足できた」と回答しており，全体のおよそ7割が高い満足度を示しているが，「あまり満足できなかった」が4名，「満足できなかった」が1名おり，不満のある学生へのどのような対処がいいのか考える必要がある。

【ボランティア活動】

ボランティア活動への参加は「ある」と答えたものは26名中9名であり，3分の1の学生が経験しており，そのうち5名が「満足できた」，残りの4名が「ほぼ満足できた」と回答し，満足度は高い。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答は，「20-29」が11名でもっとも多く，「40以上」が8名，「30-39」が5名と続く。「10-19」と「9以下」が1名ずついるが，ほとんどの学生にとって，多くの授業が満足できていたと思われる。また，満足した理由に関しては「親切で丁寧な授業であった」が16名と最も多く，「専門分野の実力がついた」が13名と続き，「教員の熱意が感じられた」，「教材を工夫していた」，「授業が一方的でなかった」，「授業内容が斬新だった」にそれぞれ6名，5名，4名，3名が回答している。これに対して「満足できなかった授業」の数は，「9以下」が16名，「10-19」が7名，「20-29」が3名いた。満足できなかった理由として「不親切でわかり難い授業だった」が15名と最も多く，「一方的な押し付け授業だった」が8名，「実力がつかなかった」，「教員の熱意が感じられなかった」が5名ずつ，「教材の工夫が見られなかった」が2名，「体系的でなく断片的だった」が1名，個別回答で2名がそれぞれ「自分にやる気がなかった」と「実力がついたか自分自身は分からない」と回答した。おおむね満足していることが見て取れるが，授業に関する不満の声もいくらかあり，学生の理解度を高める，さらに工夫した授業を行う必要がある。

【標準履修モデル】

基礎科目の配置に関しては13名が適切に「配置されていた」，12名が「おおむね配置されていた」と回答しており，残り1名が「あまり配置されていなかった」と回答している。専

門科目の配置に関しては10名が適切に「配置されていた」、16名が「おおむね配置されていた」と回答しており、適切ではないと回答した学生はいない。教育目標と標準履修モデルとの合致度については、10名が「合致していた」、15名が「概ね合致していた」と回答しているが、1名が「あまり合致していなかった」と回答している。少し不満のある学生が1名いるが、それ以外は、特に専門科目に関してはすべて肯定的な回答であり、標準履修モデルは適切であると思われる。

【専門科目への要望】

専門科目への要望については、「より高度な授業内容を実施してほしい」と思う学生とそう思わない学生がそれぞれ11名（「全くそのとおりである」1名、「概ねそのとおりである」10名）と15名（「全く思わない」1名、「あまりそう思わない」14名）でだいたい2分している。「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」と思う学生とそう思わない学生もそれぞれ12名（「全くそのとおりである」2名、「概ねそのとおりである」10名）と14名（「全く思わない」2名、「あまりそう思わない」12名）でこれもだいたい2分している。したがって専門科目の授業内容、レベルともほぼ中庸を得ているといえる。

【実験実習や野外調査について】

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対して、そう思う学生とそう思わない学生がそれぞれ15名（「全くそのとおりである」6名、「概ねそのとおりである」9名）と11名（「全く思わない」3名、「あまりそう思わない」8名）でこれもだいたい2分している。例年の傾向と変わっておらず、実験実習の時間はほぼ適切であると考えられる。

【「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望】

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対して、そう思う学生とそう思わない学生がそれぞれ12名（「全くそのとおりである」4名、「概ねそのとおりである」8名）と14名（「全く思わない」4名、「あまりそう思わない」10名）でこれもだいたい2分している。しかしながら、そう思う学生の具体的な内容に関する個別回答が多く寄せられており、目上の人（上司）等とのコミュニケーション能力の育成やマナーなど一般的なこともあるが、「専門科目の講義内容と実際の仕事や社会との関係を知りたい、それを就活に生かしたい」という意見も多かった。物理科学の多くは基礎科目であり、実用的・具体的な仕事や社会との接点や関係が分かりにくい、授業の中でそれらのことをわからせる工夫も必要であろう。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」に関して、「適切であった」が9名、「概ね適切であった」が14名とほとんどが肯定的な回答であった。しかし残りの3名は「適切でない授業もあった」と回答しており、すべて肯定的になるようにさらに努力を続けていかねばなら

ない。

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関して、「適切である」が10名、「概ね適切である」が15名とほとんどが肯定的な回答であった。しかし1名が「足りない」と回答しており、個別回答には、「集中講義，高知大学以外の大学の教員の方の講義」とする意見があった。このようなもっと学びたいという向上心のある学生のために，経費の制限はあるが，期待に答える工夫を考えておきたい。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関して、「適切であった」が16名、「概ね適切であった」が9名とほとんどが肯定的な回答であった。しかし1名が「あまり適切でなかった」と回答している。

【高知大学での学び】

「総合的に考えて，高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」に関して，「とてもよかったと思う」が10名，「おおむねよかったと思う」が15名とほとんどが肯定的な回答であった。しかし1名が「あまりよかったと思わない」と回答している。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

アンケートの回収率が実質的に 100%であることから，平成 29 年度卒業生の全員の傾向を見ることができる。「総合的に考えて，高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」や「アドバイザー教員の指導・支援」に関して 26 名中 25 名（97%）の学生が肯定的な回答をしており，満足していることがうかがえる。また，「教育研究施設（学習環境）」や「標準履修モデル」にも高い満足度が見られる。「受講科目」に関しても，20 以上満足した科目があった学生がほとんどであり，「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関して，「研究室での卒研やゼミ」，「友人との出会い」，「授業」，「先生との出会い」が上位にきており，多くの学生が卒論を含む勉学に満足していることが見て取れる。

しかし，その一方，「不親切でわかり難い授業だった」や，「一方的な押し付け授業だった」，「実力がつかなかった」，「教員の熱意が感じられなかった」，「教材の工夫が見られなかった」等の授業に満足できなかった学生も一定数おり，「適切な成績評価」も含めさらなる授業の改善が必要である。また，基礎科目の多い物理科学の授業においても社会との関連について理解させる工夫も必要であろう。

【化学コース】

平成25-29年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は，H25：24/21（114%），H26：19/15（127%），H27：5/14（35%），H28：18/17（106%），H29：16/17

(94%) であった。

以下で各年度のパーセントを（25年度，26年度，27年度，28年度，29年度）で表すことにする．なお，H27年度は回答者が5名と少なく，一人当たり20%と回答率が高くなる点に注意し，参考として欲しい．

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は，5年間を通じて「友人との出会い」(58%, 74%, 100%, 83%, 94%)，「研究室での卒研やゼミ」(46%, 37%, 40%, 50%, 44%)であり，研究室での研究活動の評価が50%に満たない．また，「授業」(21%, 16%, 0%, 17%, 50%)は，20%前後で低かったが例年と異なり倍増した．一方，“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち，「授業」は42%，58%，40%，56%，31%となっており，年度ごとにばらつきはあるものの，大きく減少した．授業アンケートやFDなど授業改善の努力が認められる．また，注意を要する傾向として，「先生との関係」(7%，0%，20%，11%，6%)，「友人との関係」(4%，5%，20%，6%，6%)が極わずかであるがトラブルが生じている．人間関係をうまく構築できない学生が少なからずいるので，今後もアドバイザー教員制度等を通じた，孤立化の掌握が望まれる．この対策として，コースとして専門授業での欠席数を毎学期第8週目に調べ対応した．

“教育研究施設（学習環境）”についての満足度は，満足とほぼ満足を合わせると79%，64%，80%，45%，75%であった．毎年減少し，H28度50%以下になっている点は気がかりであった，入学年度による評価の変動が大きいので，学習環境は十分に整っていると考えられる．“高知大学の就職支援活動”については，「満足できた」と「満足できなかった」の回答が，51%/41%，37%/16%，40%/0%，22%/17%，31%/0%であった．しかしながら，「ほぼ満足できた」の回答は63%と満足できない者は少なく，コース就職委員の活動が認められているようであり，就職率が良いことと関連があるようである．“ボランティア活動への参加”について，「ある」(13%，32%，0%，22%，50%)は，化学コースの場合，演習・実験などに費やされる時間に制約があるにも関わらず，例年になく多く，また1人を除きボランティア活動に満足している．

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(17%, 5%, 0%, 17%, 19%), 30-39(29%, 11%, 0%, 17%, 25%), 20-29(13%, 32%, 60%, 33%, 19%), 10-19(33%, 21%, 20%, 22%, 19%), 9以下(8%, 32%, 20%, 11%, 19%)となっている．年度によってばらつきがあるが，本年度は各区分が20%なった．“満足した理由”については，「親切で丁寧な授業であった」(67%，42%，60%，25%，25%)，「専門分野の実力がついた」(58%，42%，40%，43%，39%)，「教員の熱意が感じられた」(33%，16%，20%，11%，18%)となっており，H28年度と同じく「親切で丁寧な授業であった」が大きな減少が続いた．“満足できなかった授業”の数は，40以上(0%，11%，40%，17%，6%)，30-40(0%，13%，5%，0%，6%)，11%，20-30(20%，32%，20%，22%，19%)，10-20(13%，21%，0%，11%，31%)，10以下(54%，32%，40%，39%，38%)となって

いる。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(58%, 58%, 80%, 67%, 35%), 「一方的な押し付け授業だった」(38%, 58%, 40%, 28%, 21%), 「実力がつかなかった」(33%, 16%, 40%, 44%, 15%)などと改善されている。特に不親切でわかり難い授業と実力がつかなかった授業が低い数値になっている。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、いずれも肯定的な回答が、毎年80%(本年度94%)を超えている。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(83%, 90%, 100%, 94%, 83%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は13%, 16%, 40%, 22%, 6%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい”という要望に対して、否定的な人は75%, 69%, 0%, 56%, 26%であり、例年全体的に現状の授業レベルを下げしてほしいと望む人が多かったが、本年度は高度な授業を望んでいる。“実験実習の時間を増やしてほしい”と希望する人は54%, 53%, 20%, 72%, 76%と高い要望がこの2年続いた。一方で、“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”と希望する人は、15%, 57%, 40%, 33%, 57%であった。ビジネスマナー、PCの活用能力、敬語など社会人としての具体的な要望に関する記述がある。社会に出て役立つ実践的な能力を涵養する授業を要望する記述が多く見られた。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が(92%, 63%, 80%, 83%, 62%)とH26年度と同じ低くなった。また、適切でない授業もあるとの指摘もあるので各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることも重要である。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(79%, 84%, 100%, 84%, 94%)が大勢を占めている。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が88%, 89%, 60%, 89%, 100%)であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

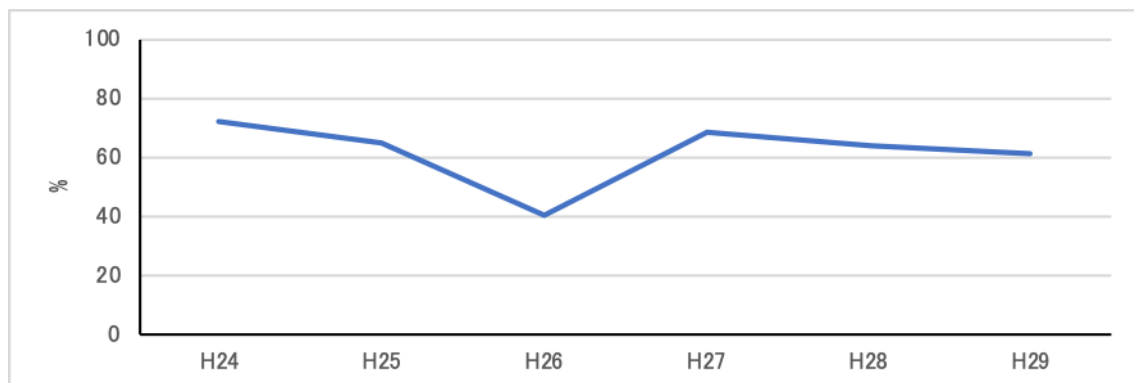
【自由意見】

理学部の教育や高知大学理学部全般について、SciFinderの必要であること、設備の改善要望があった。概ね満足しているが、一部の成績評価に関する不満の記述がある。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教員の FD および授業アンケートやピア・サポートの実施に加え、老朽化した学生実験室の改修工事などソフト&ハードの両面で教育環境の改善がなされているが、改修後に入学している 26 年度以降学生は満足度が落ちている。また、特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答や研究室での卒論やゼミに対する満足度が減少しているが、「専門分野の実力がついた」は H29 年度も大きな変化はない。また授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も少なからず存在している。教員の立場から判断すると学生の勉学意欲を高め、特に学習習慣を身に付けていない学生に対するケアによる学力のボトムアップを図る必要があると感じるが、学生との感じ方とは H29 年度は異なる結果である。例年のように、現状の授業レベルを維持しながら、深淵な知識を獲得できる授業を展開し、より高度なレベルをめざす学生の要望にこたえる工夫も引き続き必要である。また、新たな傾向として先生のみならず友人との人間関係に悩む学生がおり、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を早期に発見し、救済する支援・対応を続けることが望まれる。

【生物科学コース】

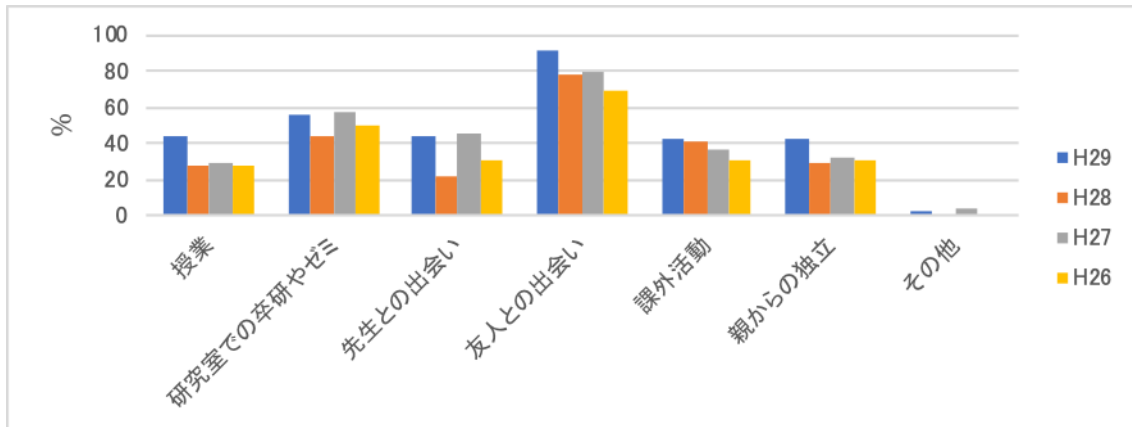


平成 29 年度の生物科学コース卒業者は 59 名で、そのうち 36 名からアンケートが回収された。回収率は 61%であった。平成 26 年度は回収率 40%と低調であったものの、平成 27 年度は例年並みとなっている。しかし、以降はやや減少傾向となっている。

以下、質問項目がほぼ共通している平成 26 年度からのデータと比較する。

【全般的な質問】

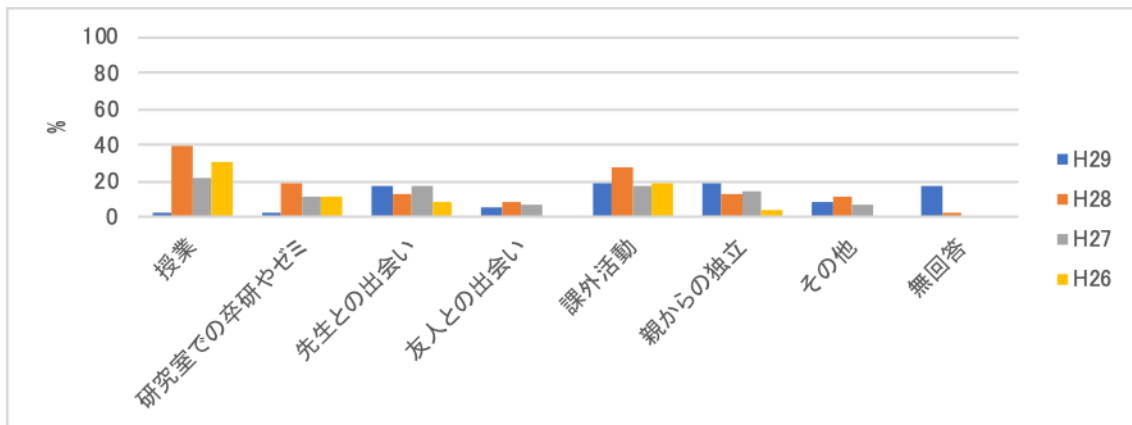
・高知大学での勉学や生活で満足できたものを選んでください。(複数回答可)



回答の多い順に「友人との出会い」(33 件, 92%), 「研究室での卒研やゼミ」(20 件, 56%), 「授業」(16 件, 45%), 「先生との出会い」(16 件, 45%), 「課外活動」(15 件, 42%), 「親からの独立」(15 件, 42%) であった。「友人との出会い」を回答した学生が最も多く、また近年にない高い割合となっていることから、満足できる友人関係の中で学生生活を送ることができたものと考えられる。

過去のデータと比較すると、「授業」および「親からの独立」が例年よりやや高い割合を示していた。

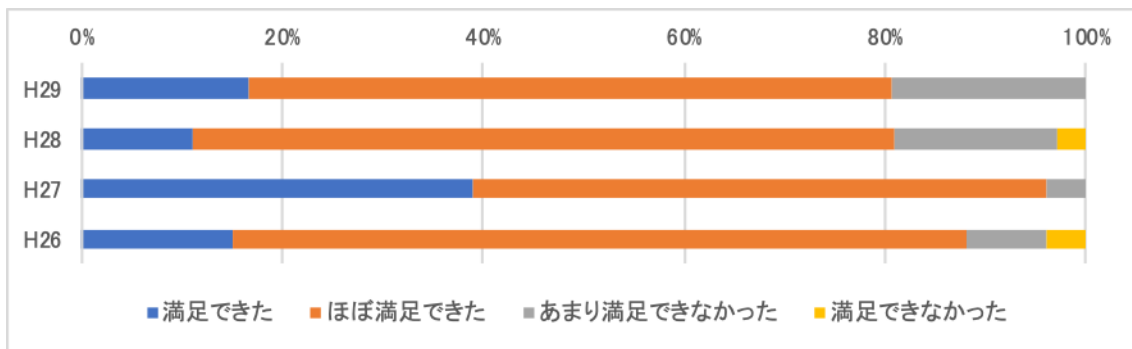
・高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを選んでください。(複数回答)



回答の多い順に「課外活動」(7 件, 19%), 「親からの独立」(7 件, 19%), 「先生との出会い」(6 件, 17%), 「無回答」(6 件, 17%), 「友人との出会い」(2 件, 6%), 「授業」(1 件, 3%), 「研究室での卒研やゼミ」(1 件, 3%) であった。

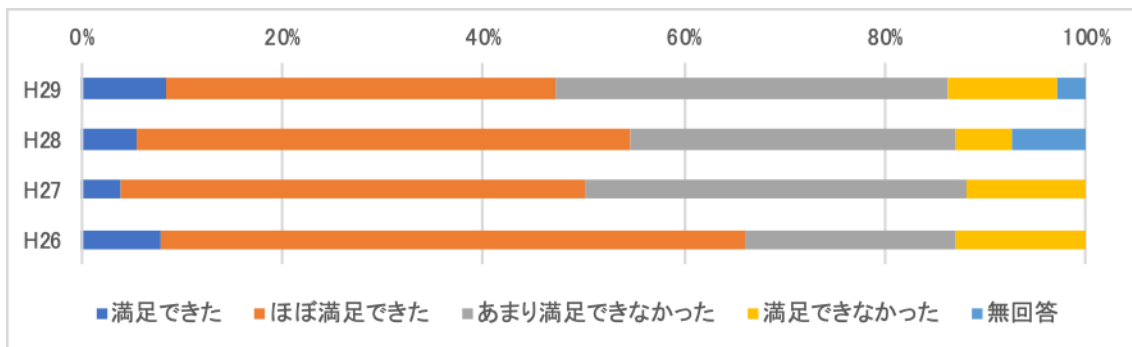
過去のデータと比較し、「授業」や「研究室での卒研やゼミ」の割合が大きく減少していた。一方、「無回答」が大幅に増加していたことから、この質問について回答しづらいと感じていた学生が多かったものと考えられる。

・教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか



教育研究施設（学習環境）については、「満足できた」17%、「ほぼ満足できた」64%、「あまり満足できなかった」19%、「満足できなかった」0%であった。「満足できた」と「ほぼ満足できた」と感じた学生は81%と高く、学生の要求をある程度はみたしているものと考えられる。

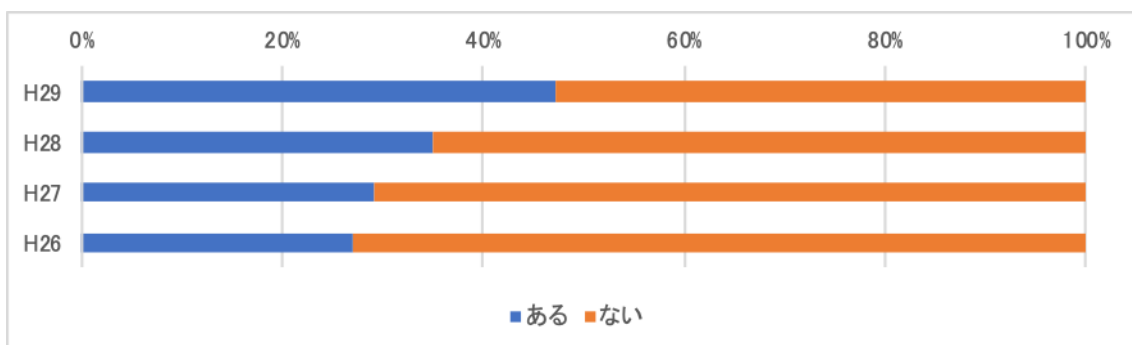
・高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか



就職支援活動について「満足できた」8%、「ほぼ満足できた」39%、「あまり満足できなかった」39%、「満足できなかった」11%であった。

過去のデータと比較し、「満足できた」と「ほぼ満足できた」を合わせても47%と、はじめて50%を割っていた。就職支援活動についてはさらなる改善が必要であろう。

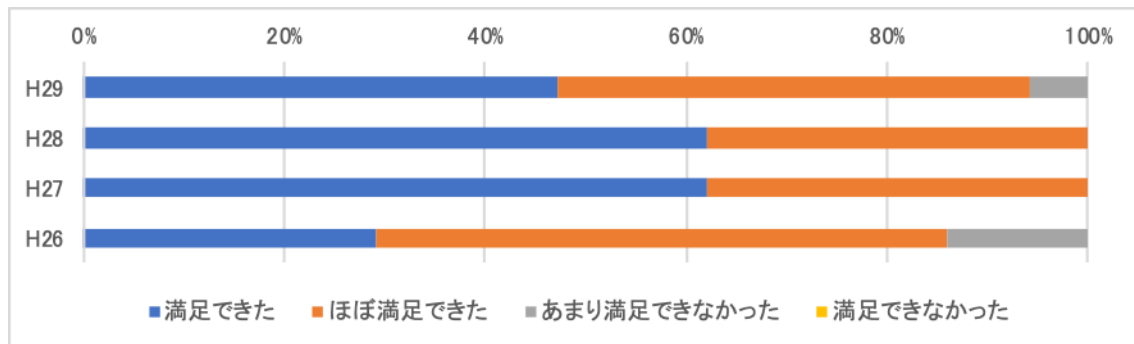
・在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか



ボランティア活動参加について「ある」47%と、「ない」53%であった。

過去のデータと比較し、「ある」と回答した学生の割合が増加傾向にある。

- ・「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか

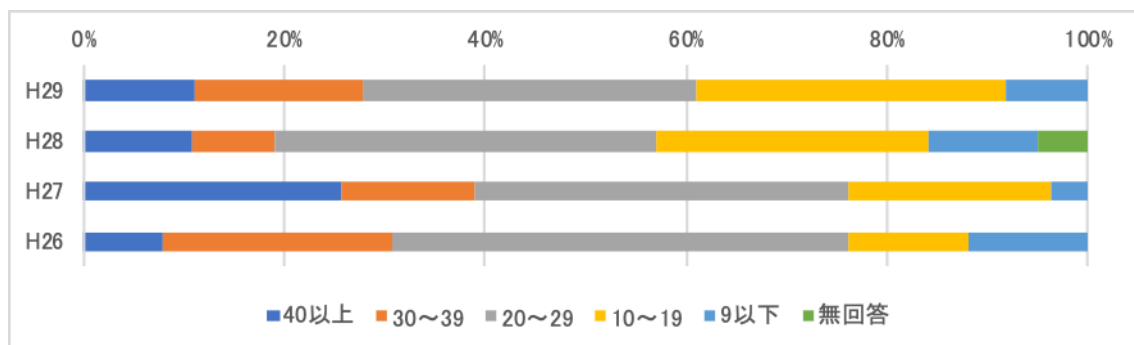


ボランティア活動の満足度について「満足できた」47%、「ほぼ満足できた」47%、「あまり満足できなかった」6%であった。

ボランティア活動については、参加者数はまだ少ないものの、満足度は高い結果となっている。学生にとって、良い経験の場となっているものと思われる。

【受講科目の感想】

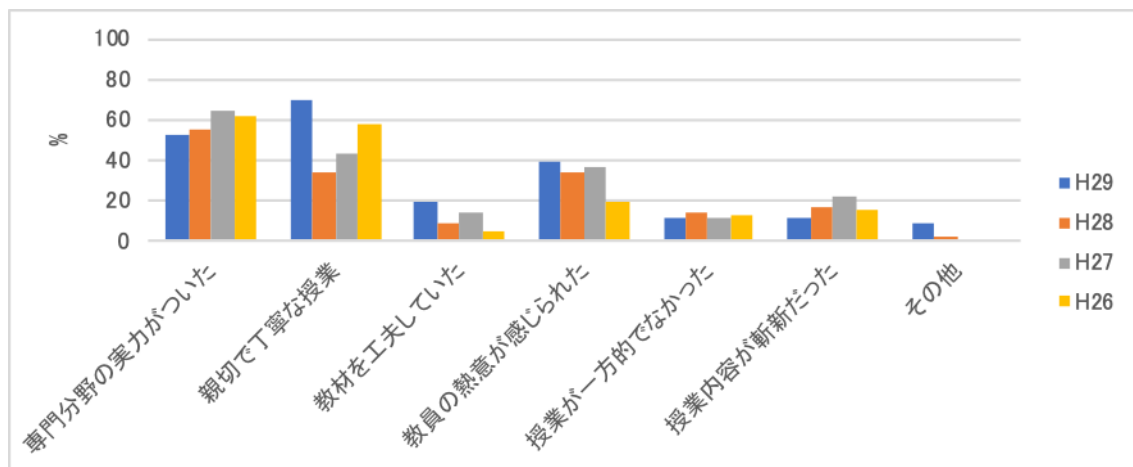
- ・あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象をお聞きます。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか



満足できた授業数は「40 以上」11%、「30～39」17%、「20～29」33%、「10～19」29%、「9 以下」11%であった。

過去のデータと比較すると、昨年度から「10～19」と「9 以下」の割合が増加していた。

- ・満足した理由を選んでください（複数回答）

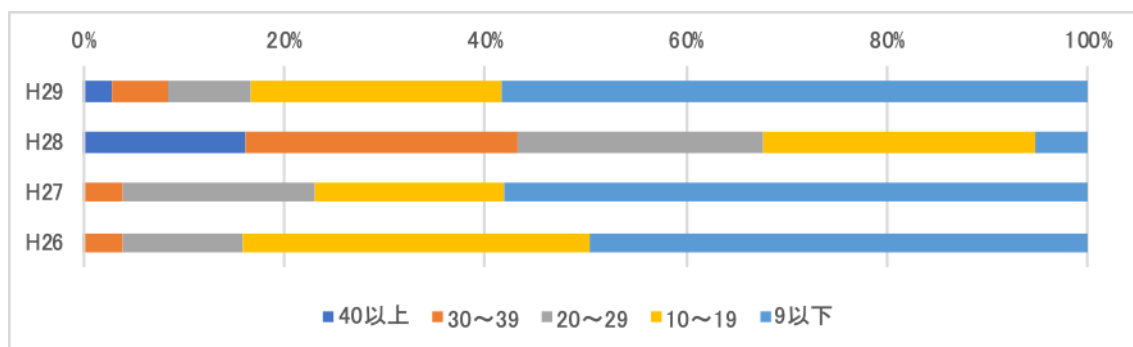


満足した理由として、「専門分野の実力がついた」19件53%、「親切で丁寧な授業」25件69%、「教材を工夫していた」7件19%、「教員の熱意が感じられた」14件39%、「授業が一方的でなかった」4件11%、「授業内容が斬新だった」4件11%であった。

過去のデータと比較すると、「専門分野の実力がついた」がやや低下傾向を示していた。一方で、「親切で丁寧な授業」の割合が大幅に増加していた。

具体的な意見として「内容がおもしろかった」「映像を見る授業等退屈しなかった」「授業内容に興味があった」が寄せられた。

・理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）のうち、満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか

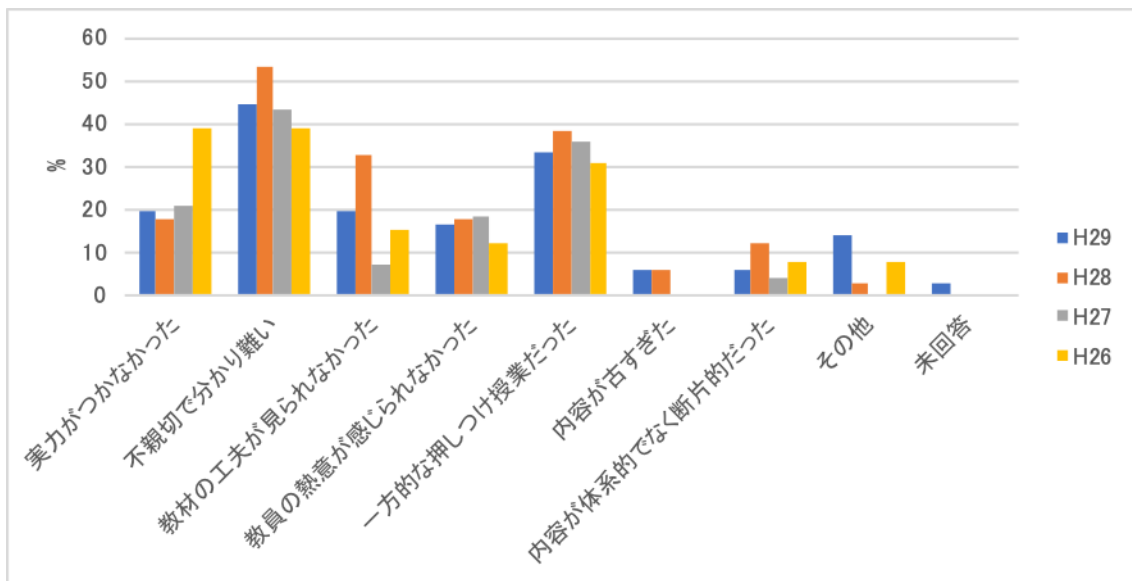


満足できなかった授業数について、「40以上」3%、「30～39」6%、「20～29」8%、「10～19」25%、「9以下」58%であった。

過去のデータと比較すると、平成28年度は大きく異なるものの、平成29年度は平成27年度や26年度と似た傾向となっていた。

具体的な意見として「授業内容とテストが関連したものかわからない点があった」「興味がなかった」「あまり興味を持てなかった」が寄せられた。

・満足できなかった理由（複数回答）

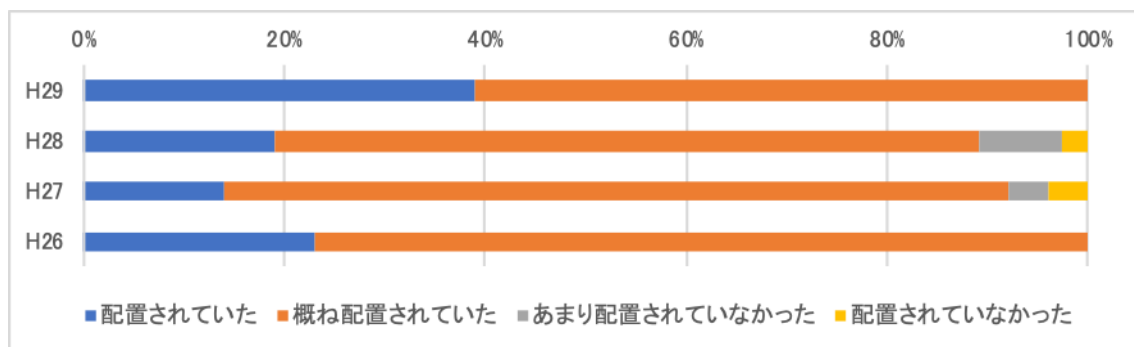


満足できなかった理由として「実力がつかなかった」7 件 19%、「不親切で分かり難い」16 件 44%、「教材の工夫が見られなかった」7 件 19%、「教員の熱意が感じられなかった」6 件 17%、「一方的な押しつけ授業だった」12 件 33%、「内容が古すぎた」2 件 6%、「内容が体系的でなく断片的だった」2 件、6%となっていた。

過去のデータと比較し、「不親切で分かり難い」の割合について、平成 28 年度からはわずかに減少しているものの、質問項目中で最も高い割合となっていた。

【標準履修モデル】

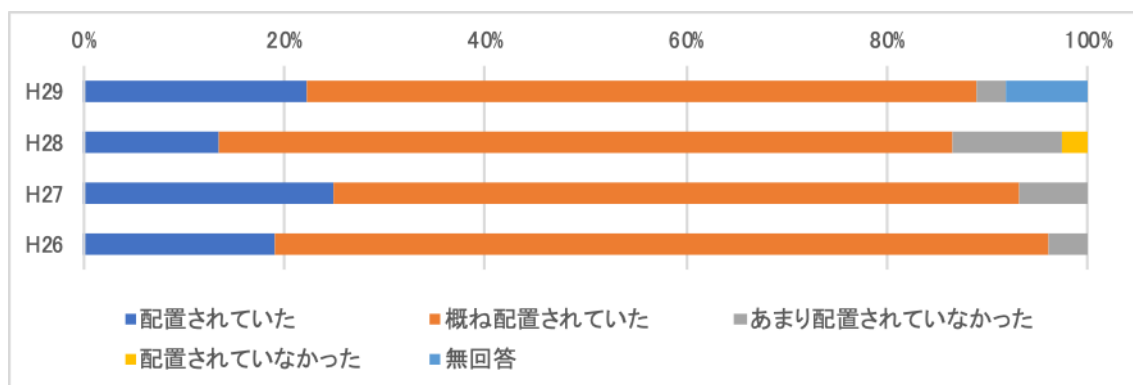
- ・基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか



基礎科目の内容や難易度については、適切に「配置されていた」39%、「概ね配置されていた」61%と、否定的意見は見られなかった。

過去のデータと比較しても適切に「配置されていた」とする割合は最も高くなっていた。

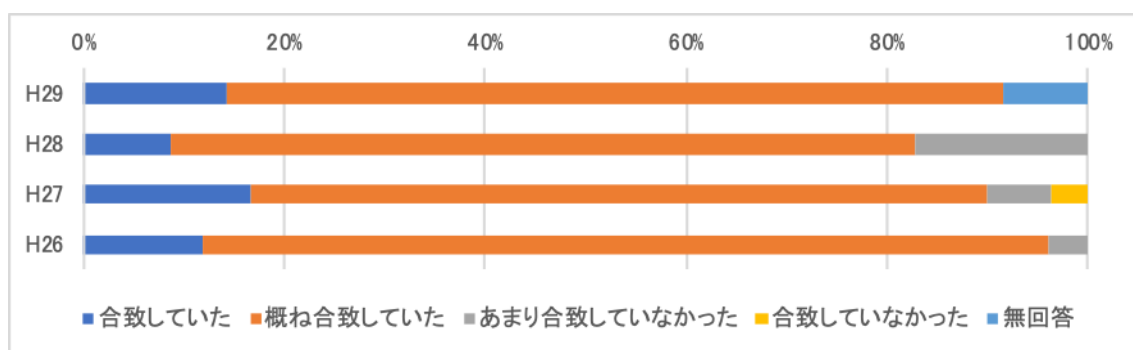
- ・専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか



専門科目の内容や難易度については、適切に「配置されていた」22%、「概ね配置されていた」67%、「あまり配置されていなかった」11%であった。

過去のデータと比較し、極端な変化は認められなかったことから、大きな問題はないものと思われる。

・教育目標は標準履修モデルと合致していましたか

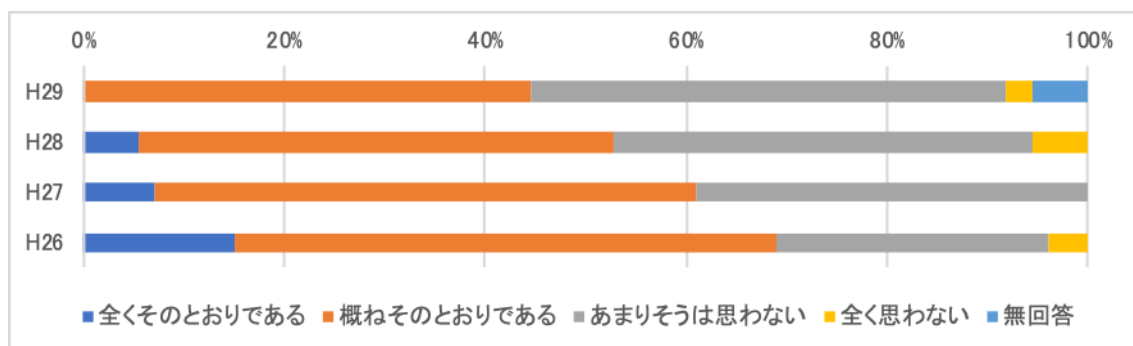


教育目標と標準履修モデルについて、「合致していた」14%、「概ね合致していた」75%であった。

過去のデータと比較し、「合致していた」または「概ね合致していた」を選択した学生が80%以上に達していたことから、大きな問題はないものと思われる。

【専門科目への要望】

・「より高度な授業内容を実施して欲しい」という要望に対するあなたの意見

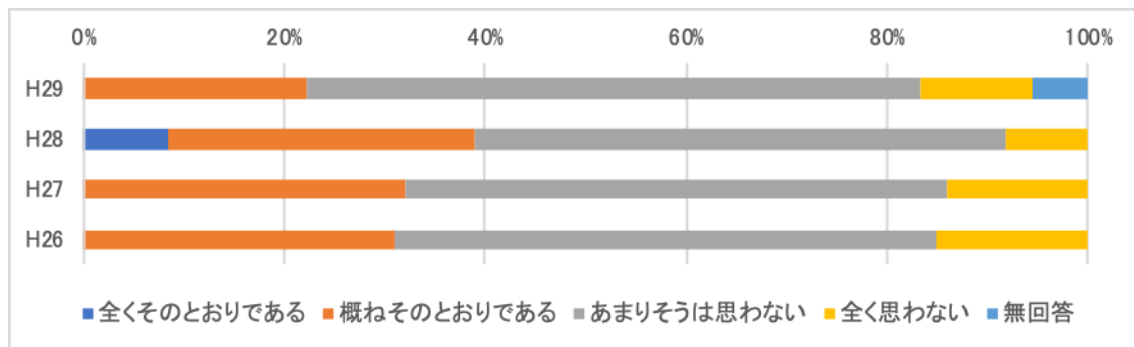


より高度な授業の実施について、「全くそのとおりである」0%、「概ねそのとおりである」

44%,「あまりそうは思わない」47%,「まったく思わない」3%であった。

過去のデータと比較すると、平成 29 年度は「全くそのとおりである」が 0%となり、「あまりそうは思わない」が増加していた。

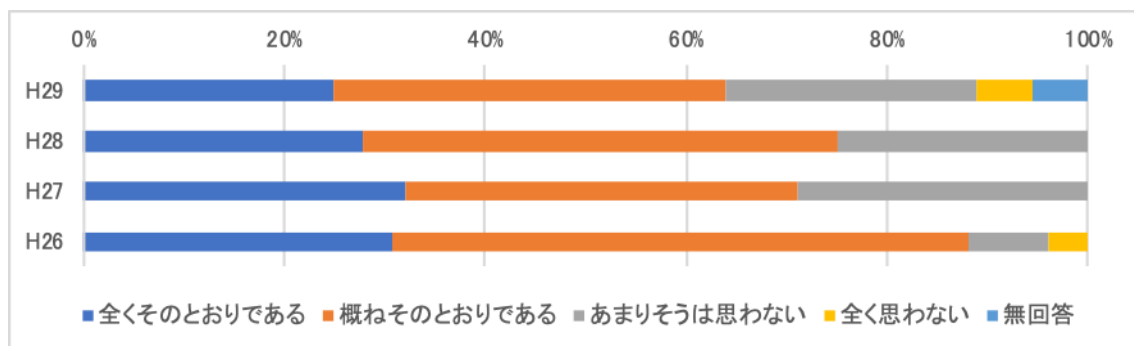
・「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対するあなたの意見



レベルを下げて欲しいという要望について、「全くそのとおりである」0%,「概ねそのとおりである」22%,「あまりそうは思わない」61%,「全く思わない」11%であった。

過去のデータと比較しても、「あまりそうは思わない」が増加傾向にある。

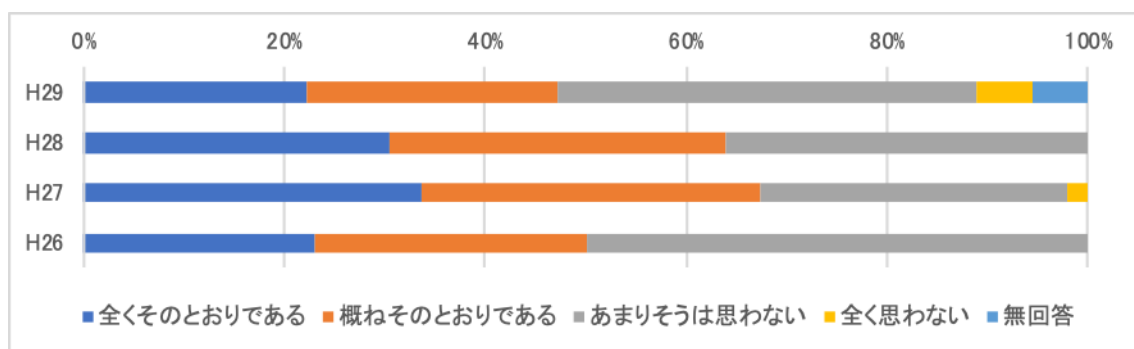
・「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見



実験実習や野外実習の時間増について、「全くそのとおりである」25%,「概ねそのとおりである」39%,「あまりそうは思わない」25%,「全く思わない」6%であった。

過去のデータと比較して、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」の割合は高いものの、減少傾向が認められる。

・「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見



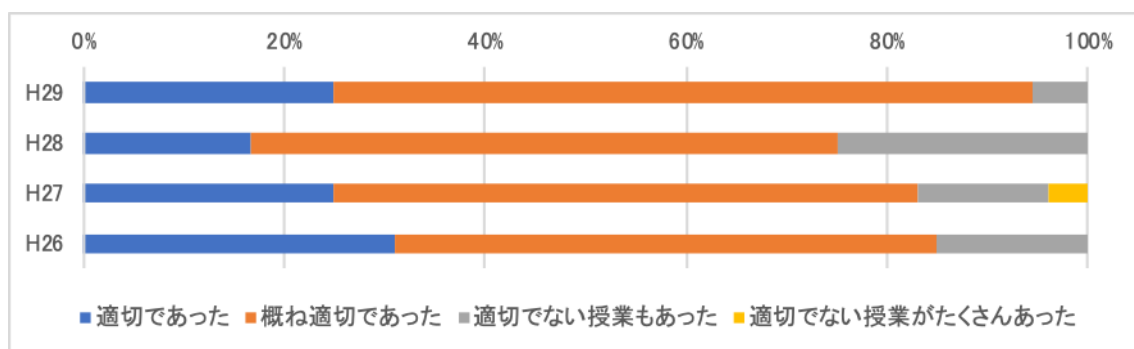
社会に出て役立つことを授業に盛り込むことに対し、「全くそのとおりである」22%、「概ねそのとおりである」25%、「あまりそうは思わない」42%、「全く思わない」6%であった。

過去のデータと比較すると、平成29年度は平成26年度と似た傾向を示していた。

具体的な意見として「社会人としてのマナー」「コミュニケーション能力向上」「授業で学んだことがどのように社会に活かされているのか」などが多く寄せられた。

【成績評価】

・これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか

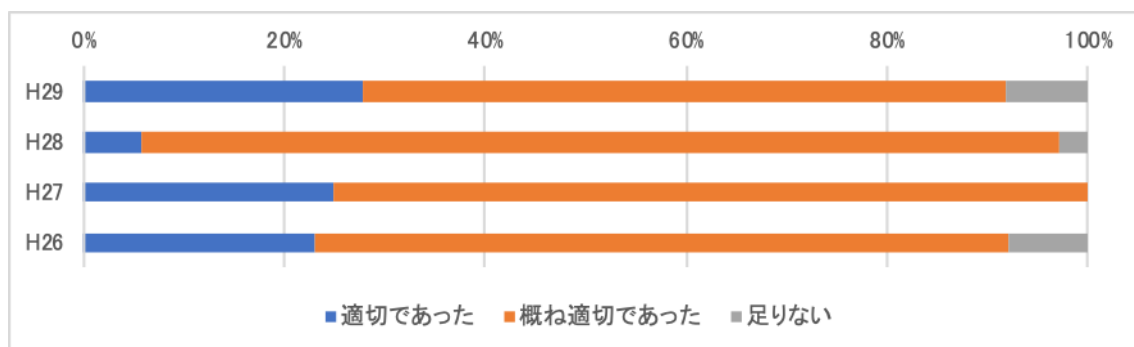


成績評価の方法について、「適切であった」25%、「概ね適切であった」69%、「適切でない授業もあった」6%であった。

過去のデータと比較し、平成29年度は「適切であった」と「概ね適切であった」を合わせて94%と過去最多となっていたことから、大きな問題はないものと考えられる。

【教育改革】

・理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか



授業科目数と内容について、「適切だった」28%、「概ね適切であった」64%、「足りない」8%であった。

過去のデータと比較し、「足りない」の割合がわずかに増加していた。

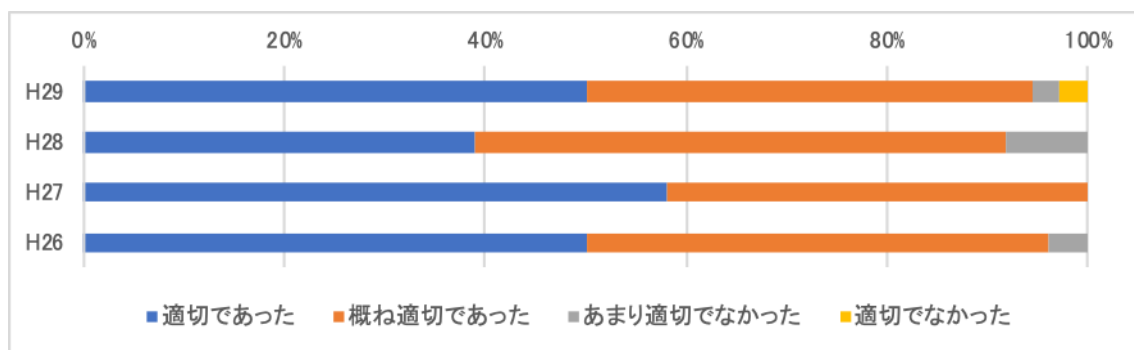
どのような授業を増やせば良いのか、という質問に対しては

1. 哺乳類や鳥類など比較的大型の動物の生態などをテーマとしたものや恐竜など太古の生物をテーマとしたもの

2. 選択科目が少なすぎる。(専門) 概論とかとりすぎたものの融通がきかないなどの意見が寄せられた。このうち1. については、理工学部生物科学科へ改組の結果、古生物学分野を含むこととなり、学生の要望への対応としては十分であると考えられる。

【アドバイザー教員制度】

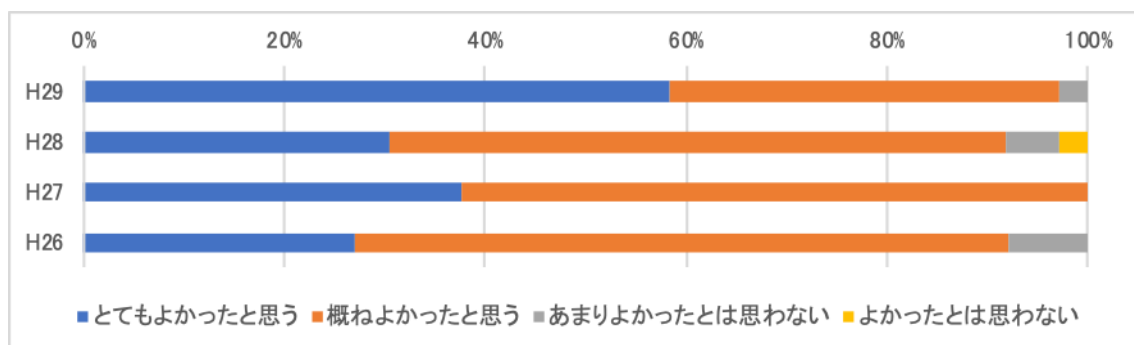
・アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか



アドバイザー教員制度については、「適切であった」50%、「概ね適切であった」44%、「あまり適切でなかった」3%、「適切でなかった」3%であった。

過去のデータと比較し、大きな変化はないものの、平成29年度ははじめて「適切でなかった」との回答があった。しかしながら、「適切であった」と「概ね適切であった」で94%に達することから、アドバイザー教員による指導・支援は有効に機能しているものと思われる。

・総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか



高知大学理学部で学んで、「とてもよかったと思う」58%、「概ねよかったと思う」39%、「あまりよかったとは思わない」3%であった。

過去のデータと比較し、平成 29 年度は「とてもよかったと思う」の割合が大幅に増加していた。

・理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください

本年度は以下の意見が寄せられた。

1. 掲示板での重要事項確認ではなく、全て KULAS で統一して確認できるようにしていただきたかったです

2. 専門科目の選択肢が少ない。オリエンテーションなど（特に教職関連）の連絡は掲示板に紙をはりつけるだけでなく、メールを送ってほしい

3. 過去の研究と現在の諸説を教えてくれる先生がいた授業は興味深かったです

近年、掲示板による通知など、インターネットを用いない情報提供手段に不慣れな、学生が増加している。このため、今後は改善していく必要がある。

【今後の教育へのフィードバック】

平成 29 年度は例年とはやや異なる結果となった。

勉学に関する事項として

(1) 「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」について、ほぼ全ての項目で例年より高い割合を示した

(2) 「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」については、「授業」と「研究室での卒研やゼミ」の割合が極端に減少していた。

(3) 「授業科目の感想」では「満足した理由」として、これまで減少傾向にあった「親切で丁寧な授業」の割合が大幅に増加した

(4) 「高知大学理学部で学んでよかった」は「とてもよかったと思う」が大幅に増加

(5) 「満足できなかった授業数」は「9 以下」の割合が過去最多
との結果が得られたものの、一方で

(6) 「満足できた授業数」は「10～19」と「9 以下」の割合が増加していたことから、

・不満は減少し、ある程度の満足感は得られてはいるものの、十分な満足感は得られていない

ものと推察される。

このことは

(7) 「授業内容や難易度において適切に配置」において「配置されていた」が過去最高

(8) 「より高度な授業内容を実施して欲しい」において「全くそのとおりである」が過去最低の 0%

との結果から「授業の現状について大きな不満はないものの、高度過ぎる内容は敬遠しがち」な学生像が垣間見える。

これらの結果から、現状を維持しつつ、高度な内容についてはより分かりやすい実施方法の検討が望まれる。

また、掲示板による通知など、インターネットを用いない情報提供手段に不慣れな学生が増加している。このため、学生への通知は KULAS に一本化するなどの改善が必要であろう。

【地球科学コース】

平成29年度末は、卒業予定者11名から9件のアンケートが回収された。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関する回答（複数回答）は、「授業」と「研究室での卒研やゼミ」と「先生との出会い」がそれぞれ8名で最も多く、「友人との出会い」が続く。一方「満足できなかったもの」としては「授業」、「課外活動」を挙げたものが2名ずつあった。全体として、大きな問題はないと思われる。

【教育研究施設】

教育研究施設（学習環境）に関しては、9名中7名が「満足できた」あるいは「ほぼ満足できた」と回答しており、大きな問題はない。

【就職支援活動】

就職支援活動に関する感想としては、回答のあった7名中6名の学生が「満足できた」あるいは「ほぼ満足できた」と回答しており、大きな問題はない。

【ボランティア活動】

ボランティア活動に参加した学生は、9名中1名で、実数だけでなく割合も他コースよりも少ないのはやや気になる。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答はいずれも幅が広く、学部全体と比較して大きく変わった傾向は見られない。また、満足した理由（複数回答）に関しては、「親切で丁寧な授業であった」（7名）、「専門分野の実力がついた」（5名）、「教材を工夫していた」（4名）、「教員の熱意が感じられた」（4名）などと回答している。これに対して「満足できなかった授業」の数は、最も少ない選択肢である「9以下」に分布が集中しており、好ましい結果といえる。一方、満足できなかった理由（複数回答）としては、「教員の熱意が感じられなかった」（5名）、「実力がつかなかった」（3名）、「不親切でわかり難い授業だった」（3名）、「一方的な押し付け授業だった」（3名）、となっている。全体としては、「満足した」、あるいは「満足しなかった」理由を複数回答で問う質問に対する

回答数を見ると、「満足した」が23、「満足しなかった」が14であることから、全体として、満足している学生が多い傾向と判断してよいだろう。

【標準履修モデル】

基礎科目の配置に関しては8名の学生が、そして、専門科目に関しては7名の学生が、適切に「配置されていた」あるいは「おおむね配置されていた」と回答している。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」という要望に対して、「全くそのとおりである」、「概ねそのとおりである」との回答は7名、逆に、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」との回答に対して、「全くそのとおりである」は0、「概ねそのとおりである」が4で、「全く思わない」が4名であった。この回答から判断すると、より高度な授業を増やす必要があることになるが、これは卒業直前のアンケート結果であることを考慮すべきかもしれない。

【実験実習や野外調査について】

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対して8名の学生が「全くその通りである」あるいは「おおむねその通りである」と回答している。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」との問いには、9名全員の回答が「適切であった」または「概ね適切であった」と回答しており、学生の視点から見る限り、問題はない。ただし、これが真に適切な評価であったかどうかは別問題であり、学生がどこまで実力をつけたかを客観的に評価できているわけではないことには注意すべきである。また、機関別認証評価など、外部の視点からの問題は別途考慮する必要がある。

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関しては8名が「適切である」または「概ね適切である」と回答しており、学生は特に問題を感じていないことが分かる。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関して9名全員の学生が「適切であった」あるいは「概ね適切であった」と答えている。

【高知大学での学び】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」との間に、9名全員の学生が「とても良かったと思う」あるいは「おおむね良かったと思う」と回答しており、良い結果となっている。地球科学コースでは、学生数が少ないために、一人一人の学生に

目が届く教育ができたこともこの一因と思われる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

以上の結果は例年と大きく変わるものではないが、地球科学コースでは、比較的満足度の高い教育を実施してきたことがあらためて確認できた。学部改組の結果、コースとしての体制は残り1年半あまりとなるが、今後、担当教員間の連携を今以上に密にすることで、「地球科学コース」の教育が今以上に良いものとなるようにしたい。

個別意見として、「海洋コアセンターへのパイプをもう少ししっかりするべき」という意見は、注意しておく必要がある。これまで海洋コアセンターとの連携の中心となってきた地球科学コースが理学部と共になくなるため、今後ますます、理工学部と海洋コアセンターの連携の問題を考える必要がある。

「就職室の一部の事務の方が何を質問しても「わかりません」とばかり回答されるので困ってしまいました。」との回答については、同様の意見が複数あるのであれば、就職室に伝えておく必要があるかもしれない。

【情報科学コース】

平成29年度27名の卒業者数で回答は26名、回答率は96.3%である。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」については、「友人との出会い」が19名、「研究室での卒研やゼミ」が18名、「先生との出会い」が16名と多く、「課外活動」、「授業」「親からの自立」が10名くらいとなっている。

「高知大学での勉学や生活で満足できなかったもの」については、「親からの自立」が4名、「授業」が2名、「課外活動」が2名、「友人との関係」が1名であった。その他が7名であったが、そのうち4名が「特になし」となっており、「大学の設備」、「ディスカッションする授業や場が欲しい」、「コミュニケーション能力の向上」との回答があった。学習意欲の高い学生が満足できるよう、今後の改善が必要であることがわかった。一方、「研究室での卒研やゼミ」、「先生との関係」に満足できなかった学生は0名であったことから、概ね、研究室での卒研やゼミに満足しており、研究室内における教員と学生との関係が大変良好であることがわかる。

「教育研究施設(学習環境)」については、「ほぼ満足できた」が15名と多く、「満足できた」は9名であった。「あまり満足できなかった」は2名である。この結果より、情報科学コースの教育研究施設(学習環境)は、学生にとって十分満足できるものであることがわかる。

「高知大学の就職支援活動は満足できるものか」については、「ほぼ満足できた」が10名と多く、「満足できた」についても8名おり、26名中18名の学生が概ね満足していることがわかる。一方、「あ

まり満足できなかった」は6名、「満足できなかった」は1名おり、満足できなかった学生が0名になるよう、今後、より一層、学生への就職支援情報の周知に努めることが必要であると考えます。

「在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか」については、「ある」と答えた学生が6名であった。そのうち、5名が「満足」「ほぼ満足」であった。一方、「ない」と答えた学生は20名となっており、ボランティア活動への参加意識は低い。

【受講科目の感想】

「受講科目で満足した科目数」は、回答の多い順に「40以上」が2名、「30~39」が11名、「20~29」が7名、「10~19」が6名、「9」以下は0名であった。学生が満足することができた授業科目が多いことが分かる。「満足した理由」については、「専門分野の実力がついた」が14名、「親切で丁寧な授業があった」が11名、「教員の熱意が感じられた」が7名であった。「おもしろかった」という感想もあった。多くの科目において適切な教育がなされていることがわかる。「満足できなかった授業の数」は、「9以下」が15名と多く、ほんとどの科目は学生の満足できる科目であったことがわかる。「満足しなかった理由」については、「不親切でわかり難い授業だった」が9名、「実力がつかなかった」、「教材の工夫が見られなかった」、「教員の熱意が感じられなかった」、「一方的な押し付け授業だった」がおおよそ5名くらいであった。「その他」として、「板書が多すぎて追いつくのが大変」、「興味が持てなかった」とあった。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、授業内容・難易度において適切に配置されていたか」については、「概ね配置されていた」が15名、「配置されていた」が10名であった。適切に配置されていたことがわかる。次に、「基礎科目は、授業内容・難易度において適切に配置されていたか」については、「概ね配置されていた」が15名、「配置されていた」が11名であった。専門科目においても基礎科目と同じく、適切に配置されていたことがわかる。「各教育コースが掲げている教育目標は標準履修モデルと合致しているか」については、「合致していた」が11名、「概ね合致していた」が15名であった。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」については、「概ねそのとおり」が14名、「あまりそう思わない」が7名であった。このことより、現状の授業レベルからの急激な高度化は望まれていないことがわかる。

「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」についても「あまりそう思わない」が17名、「全くそう思わない」が5名となっており、授業レベルが概ね適切であることがわかる。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」については、「あまりそう思わない」が 10 名、「全くそう思わない」が 5 名と半数を占めており、現状でほぼ適切であることがわかる。

「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」については、「あまりそう思わない」が 9 名、「全くそのとおりである」8 名、「概ねそのとおりである」が 7 名、「全く思わない」は 2 名となっている。

「社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか」については、「グループディスカッション」、「実際に、最前線で働いている人に話を聞く。もしくは技術的なことを習う」、「仕事で必要な知識」、「専門的な知識」、「社会で実際に行かれている事務やインターンシップや実際にビジネスをしてみる」、「専門科目で個々人の志望にあった様々な分野の授業を選択すること」、「例えば、CG や文書系、CAD の様なもの」、「コミュニケーション能力に関する講義」、「資格を取る際に重要なこと」、「言語学習（プログラム）の授業を増やしてほしい」、「ビジネスマナー」、「仕事・ビジネスに関する授業」、「具体的な仕事の内容」との回答があり、多岐にわたる。情報科学コースの多くの科目は社会で役立つ内容を含む。しかし、高度情報化社会において、情報技術は日々急速に進展しており、その変化に合わせ、社会で役立つ内容を盛り込んだ適切な授業が望まれていることがわかる。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」については、「概ね適切であった」が 17 名、「適切であった」が 8 名となっており、概ね適切な評価がなされていたことがわかる。

【授業改革】

「各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか」については、「概ね適切である」が 16 名、「適切である」が 8 名、「足りない」が 2 名であった。科目数は適切であることがわかる。「足りない」と回答した学生に対して「どんな授業を増やせばよいか」という問いに対して、「言語の授業」、「専門的で悪くいえば潰しのきかないようなものを、もっと多くしても良いと思う」という回答があった。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか」については、「適切であった」が 17 名、「概ね適切であった」が 6 名であった。アドバイザー教員の指導制度が機能していることがわかる。

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」については、「とてもよかったと思う」が 11 名、「おおむねよかったと思う」が 15 名であった。情報科学コースにおいて、多くの学生が満足していることがわかる。

【分析と今後の教育へフィードバック】

概ね、研究室での卒研やゼミに満足しており、研究室内における教員と学生との関係も大変良好であることがわかった。教育研究施設（学習環境）においても、学生における満足度は高かった。また、「ディスカッションする授業や場が欲しい」、「コミュニケーション能力の向上」といった意見もあり学生の勉学意欲が高まっているように感じた。

その一方で、勉学や生活で満足できなかった理由に「大学の設備」があがっていた。詳細は述べられていなかったが、情報科学棟の老朽化、特に、空調設備は25年間使用しており故障が頻繁に発生している。このことのように思えた。情報科学棟の空調設備については今年度も頻繁に故障が発生し、夏に使用できない状況になった部屋が多数あった。耐用年数を大幅に過ぎており、部品の調達も難しく、修理が済むまでに1ヶ月ほど時間を要する。教育および研究への影響は無視できない状況にあり、早急なる空調設備の更新が望まれる。

就職支援については、概ね満足しているようではあるが、一部満足していない学生もあり、全員が満足できるよう、今後、より一層、学生への就職支援情報の周知に努める必要があると考える。

授業については、基礎科目および専門科目の内容・難易度・配置については概ね適切であることが確認された。しかし、一部において満足できなかった授業もあり、今後、原因の解明と改善が必要であると考ええる。

専門科目において「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望が高かった。情報科学コースの多くの科目は社会で役立つ内容を含む。しかし、高度情報化社会において、情報技術は日々急速に進展しており、その変化に合わせ、社会で役立つ内容を盛り込んだ適切な授業が望まれていることがわかる。理工学部のカリキュラムで改善されていることもあり、今後の動向を見つつ、さらに充実できるよう努力する。

以上のアンケート結果および分析結果を活かし、学生の学習意欲を高め、高度情報化社会で必要となる専門力を涵養できる充実した教育の提供を目指していく。

【応用化学コース】

平成25-29年度の5年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H25:25/30(83%)、H26:18/26(69%)、H27:24/30(80%)、H28:22/27(82%) H29:33/35(94%)であった。

以下で各年度のパーセントを（25年度、26年度、27年度、28年度、29年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、5年間を通じて「友人との出会い」（80%、72%、75%、86%、88%）、「研究室での卒研やゼミ」（56%、50%、42%、55%、58%）であり、研究室での研究活動の評価が50%強となっている。また、「授業」は、20%、17%、

17%, 27%, 15%で減少傾向である。“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は40%, 44%, 38%, 35%, 22%であった。H25年度から約40%弱で継続したが本年度は減少した。注意を要する点として「先生との関係」で極わずかであるがトラブルが生じている。また、「課外活動」(16%, 16%, 13%, 4%, 42%)は本年度急に増えている。H29年度に特徴的である。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると88%, 83%, 79%, 77%, 77%で減少気味であるが、学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就職支援活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答は、68%/20%, 78%/23%, 58%/17%, 60%/14%, 57%/3%となっており、「あまり満足できなかった」が30%である、就職率の向上と一致がなく、ミスマッチがないか、心配される。“ボランティア活動への参加”について、「ある」(24%, 28%, 29%, 18%, 33%)は、数値的にはそれほど高いとは言えない。応用化学コースの場合、特に4年生では卒業研究などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないにもかかわらず参加者がいる。なお、ボランティア活動への参加者は全員その活動にほぼ満足している。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(4%, 0%, 13%, 14%, 9%), 30-40(28%, 22%, 21%, 32%, 15%), 20-30(44%, 33%, 25%, 23%, 42%), 10-20(20%, 28%, 29%, 14%, 30%), 10以下(4%, 17%, 13%, 18%, 3%)となっている。年度によってばらつきがあるが、全般的に年度を経るごとに満足できた授業の数が極わずかながら減少傾向である。“満足した理由”については、「専門分野の実力がついた」(60%, 56%, 42%, 28%, 31%), 「親切で丁寧な授業であった」(52%, 39%, 46%, 31%, 31%), 「教員の熱意が感じられた」(32%, 28%, 38%, 22%, 14%)となっており、「教員の熱意が感じられた」のみが減少している。“満足できなかった授業”の数は、40以上(0%, 0%, 8%, 9%, 6%), 30-40(0%, 11%, 21%, 14%, 6%), 20-30(12%, 28%, 29%, 14%, 27%), 10-20(28%, 28%, 21%, 23%, 24%), 10以下(60%, 33%, 17%, 41%, 36%)となっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(36%, 61%, 46%, 33%, 30%), 「一方的な押し付け授業だった」(16%, 28%, 33%, 21%, 12%), 「実力がつかなかった」(20%, 16%, 25%, 12%, 21%)などとなっており、授業は改善されつつあると受けとめられるが実力がついたと感じていない者もいる。“満足できた授業”と“満足できなかった授業”でそれぞれの授業数の減少傾向があるが、学生の二極化が続いているように見受けられる。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、肯定的な回答が、84%, 90%, 96%, 86%, 86%と毎年高い。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(96%, 83%, 92%, 86%, 86%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は28%, 6%, 17%, 5%, 12%であった。肯定的な回答(概ねそのとおりである)が60%である。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい”という要望に対して、否定的な人は76%, 78%, 62%, 59%, 79%であり、全体的に現状の授業レベル以上を望む人が多いようである。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して、それぞれ希望する人は56%, 66%, 66%, 50%, 64%や44%, 44%, 54%, 50%, 54%であり、コミュニケーションやプレゼン能力の向上、ビジネスマナー、PC活用能力など具体的な要望に関する記述が数件あった。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が96%, 72%, 71%, 59%, 78%となっており、理学部全体の85%より低く、“適切でない授業もあった”も18%と僅かに高い。成績評価の明確な基準を学生に伝えることも重要である。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(96%, 86%, 87%, 78%, 87%)が高く維持されている。授業改革に関する具体的な記載はなかった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が100%, 88%, 94%, 92%, 95%, 94%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

【自由意見】

特に記述なし。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

この数年来、教育熱心な若い先生方を迎え入れ、老朽化した学生実験室の改修工事が進むなど、教育環境の改善がなされており、一定の効果が得られているように思われるが、特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が本年度 30%程度と評価が低く、研究室での卒論やゼミに対する満足度が理学部の平均的な数値である点と異なる。また、授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、学力の二極化が進んでいるとともに勉学意欲が落ちている学生が増えてきているように思われる。そのため特に成績不振学生については早期に発見し、学習習慣をしっかりと身に付けさせる早期ケアの必要性が増している。以上、学習に関しては例年と特に大きな変化は見受けられない。また大学での人間関係に悩む学生がおり、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を発見し、救済する

支援対応を続けることが望まれる。一方、現状の授業レベルを維持しながら、高度な知識と応用力を獲得できる授業を展開し、意識の高い学生の要望にこたえる工夫も必要である。

【海洋生命・分子工学コース】

[29 年度の数字に続いて 28 年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者 21 名のうち全員（21 名）から回答を得た。回答率は 100（89）%である。コース配属学生数が比較的少なく、回収作業が容易だったとは言え、コース長のハンドリングが見事であった事が伺える。

【全般的な質問】

大学で満足したこととしては、「研究室での卒研やゼミ」が 61%でトップ、次点は「先生との出会い」で 48%であった。一体どの教員との出会いが満足だったのか、該当教員名があれば良かった。昨年度は「友人との出会い」が 61%でトップ、「課外活動」が 59%で次点であった。一年でこうも結果が変わるものであろうか。注目すべきは昨年度トップの「友人との出会い（61%）」が 19%と激減している点である。人付き合いが希薄になってきている世相を反映しているのかもしれない。

一方、満足できなかったこととしては「課外活動」が 29%でトップであった。「課外活動」は文字通り「課外」なので、It's not my business である。「授業」や「研究室での卒研やゼミ」は各々 5%、19%と少数であり、コースとしては特に問題はないと考えられる。教育研究施設（学習環境）については「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で 81%（72%）と、昨年比でも高い数字となった。高知大学の設備の充実が学生たちに支持されている結果なのか、あるいは学生たちが無いものねだりしても無駄であると悟ったのかのどちらかであろう。就職支援に関しては昨年同様「満足できた」と「ほぼ満足できた」が合計で 71%（75%）となっており、「あまり満足できなかった」と「満足できなかった」の合計 19%を大きく上回っている。

【理学部に関する質問】

満足できた授業の数に関して、28 年度は「10～19」が 34%、「20～29」が 22%であったのに対して、29 年度は「30～39」が 57%と最多であった。「40 以上」が 1 名なのがちょっと寂しいように見えるが、実は単に理学部開設科目を 40 以上履修している学生がほとんどいないだけなのかもしれない。満足した理由については「専門分野の実力がついた」と「親切で丁寧な授業であった」が共に 62%であった。満足できなかった授業の数については、「9 以下」が 48%（44%）で最も多く、次いで「10～19」が 33%（31%）となっている。理由としては「不親切でわかり難い授業だった」が 38%で最も多く、次いで「実力がつかなかった」が 33%であった。

【標準履修モデル】

基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が100%（91%）を占め、肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が95%（91%）であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、95%（88%）が「合致していた」「概ね合致していた」と回答しており、十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が86%（50%）と昨年比でも増加している。実際に授業を担当している方としては？と感じるが、実際、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」に関して、「全くそのとおり」と「概ねそのとおり」が43%もあり、どうも回答内容に一貫性が見られない。「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」は「全くそのとおり」と「概ねそのとおり」で67%を占めるが、人手も資金もない現状では困難である。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」に関しては「あまりそう思わない」が48%で最多であった。「全くそのとおり」と「概ねそのとおり」を合わせると52%になるが、役立つことの内容に関しても「マナー」や「コミュニケーション能力」であり、理学部専門科目とは異なる。「英語力の向上」にしてもしかりである。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は81%（84%）であり、昨年とほぼ同率の高い数値であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」と答えた学生は90%（88%）であり、これも高い数値であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は81%（97%）と依然高い値であり、この制度が十分に機能している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

他コースと比較して、当コースの学生は「自由記載欄」への記載が非常に少ない。本アンケートに関する関心の低さが伺われる。唯一の記載が「難易度がシラバスに明記されておらず、事前情報もなしに不合格者を多数出す授業が…」とあり、これはコース長として検討する必要があるかと思えたが、他コースの授業の様であった。

【災害科学コース】

平成29年度末は、卒業予定者16名全員からアンケートが回収された。昨年度は13名のうち11名から回収されており、回収率は84.6%から100%へ改善している。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたもの」に関する回答（複数回答）は、「研究室での卒研やゼミ」が12名と最も多く、ついで「友人との出会い」が10名、「先生との出会い」と「授業」がそれぞれ

れ8名および7名でそれに続いている。一方「満足できなかったもの」としては「課外活動」が6名でもっとも多く、「親からの自立」の4名、「研究室での卒研やゼミ」の3名が続いた。個別回答では、満足できたものにアルバイトが挙げられていた。

【教育研究施設に関する感想】

教育研究施設(学習環境)に関しては、16名のうち7名が「満足できた」、9名が「ほぼ満足できた」と回答しており、満足度は高かったことがわかる。

【就職支援活動の感想】

就職支援活動に関しては、16名のうち3名が「満足できた」、8名が「ほぼ満足できた」と回答しており、全体のおよそ2/3が高い満足度を示した。残りの1/3は「あまり満足できなかった」(5名)と回答しており、「満足できなかった」とする回答はゼロであった。

【ボランティア活動の有無】

「ある」と答えたものは4名、「ない」と答えたものは12名だった。

【ボランティア活動の感想】

ボランティア活動の経験がある4名のうち、2名が「満足できた」、残りの2名が「ほぼ満足できた」と回答しており、満足度は高い。

【受講科目の感想】

「満足できた授業」の数に関する回答は幅広く分散しており、「20-29個」とする回答がもっとも多く(5名)、他は2-3名であった。また、満足した理由に関しては9名の学生が「専門分野の実力がついた」と回答し、6名の学生が「**親切で丁寧な授業であった**」と回答している。個別回答では、「教授の人間性と情熱」とあった。これに対して「満足できなかった授業」の数は、「9個以下」が11名、「10-19個」が4名、「20-29個」が1名となった。満足できなかった理由として「実力がつかなかった」が5名、「不親切でわかり難い授業だった」と「一方的な押し付け授業だった」が4名、「内容が体系的でなく断片的だった」が3名だった。また、個別回答には「難しく理解できないものだった。」とあった。

【標準履修モデル】

基礎科目の配置に関しては13名の学生が、そして、専門科目に関しても13名の学生が、「適切に「配置されていた」あるいは「おおむね配置されていた」と回答している。教育目標と標準履修モデルとの合致度については、全員が「合致していた」(4名)、「概ね合致していた」(12名)と回答している。

【専門科目への要望】

専門科目への要望については、「より高度な授業内容を実施してほしい」と概ね考えている学生が8名、「あまりそう思わない」との回答が7名と拮抗していた。逆に「**難しい授業が多すぎるので、もう**

少しレベルを下げてほしい」と考えている学生は3名（「全くそのとおりである」(1名)と「概ねその通りである」2名の合計）であり、残りの13名は「あまりそう思わない」と回答している。

【実験実習や野外調査について】

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対して11名の学生が「全くその通りである」あるいは「おおむねその通りである」と回答している。

【「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望】

「まったくその通りである」、「概ねその通りである」の回答はそれぞれ2名および5名、「あまりそう思わない」の回答が最も多く8名で、1名が「まったく思わない」と回答した。個別回答が多く寄せられており、「人の役に立つこと。」、「地震に対しての対策や自分の身の回りで起こる災害についての防災方法など」、「研究を続けたいです。社会の進歩を押し進めたいです」、「マナー」、「経済か政治」、「学問として学ぶのではなく今日本や世界では何が起き、どういう議論がなされているかについて知る機会がほしい。そして考え、卒業後にどんな職業に就きたいかを考えさせられるような講義がほしい。」、「経営者や成功者を招き経験や心の持ち方等を語ってもらい自己啓発したい。」といった、社会に役立つことを求める側の意見が多かった。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切であったか」との問いには、14名の回答が「適切であった」または「概ね適切であった」と回答している。

【授業改革】

「授業科目数と内容」に関しては14名が「適切である」または「概ね適切である」と回答している。一方で個別回答には、「必修と選択必修の科目が多すぎる。自由がなく本当に学びたいことを十分に学べない。全体の科目は多くないがしぼりすぎ。」とする意見があった。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援」に関して14名の学生が「適切であった」あるいは「概ね適切であった」と答えている。

【高知大学での学び】

「総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか」との問いに、1名が「あまりよかったと思わない」と回答したものの、14名の学生が「とても良かったと思う」(6名)あるいは「おおむね良かったと思う」(8名)（一人無回答）と回答しており、満足度は全般に高かったと考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

高知大学で満足できたものの上位に「卒研」、「友人・教員との出会い」、「授業」が挙げ

られていることから、大学での学びによる自らの成長を感じた卒業生が多かったと考えられる。一方、授業の満足度の数では幅広い回答があり、個別の授業に関してはそれぞれ異なる意見があるようだ。専門科目の難易度については、より高度化を望む学生と望まない学生が拮抗していたが、より簡易化を求める学生は少なく、学生の平均的な実力に対してやや難易度は高いが頑張ればなんとかなるレベルを提示していることが推察される。この難易度が学生の最終的全体的な満足度につながっているのではないかと、希望的に考える。

今後は新課程での授業が中心となり、従来とは意識の異なる学生が増えることが予想される。学科としては地球科学分野と防災技術分野の共存した体制が形作られている。しかし未だその共存関係が現場でどのように作用するかは手探りの状況である。基礎理学と応用工学の両輪が一つの何か共通する理念を突き動かすような、より具体的な新たな意識作りが求められている。学生とともに作り上げていくことになるだろう。

II. 集計結果

所属

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
- A. 数学コース B. 物理科学コース
C. 化学コース D. 生物科学コース E. 地球科学コース
F. 情報科学コース G. 応用化学コース
H. 海洋生命・分子工学コース
I. 災害科学コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	49	25	17	59	11	27	35	21	16	260
回収件数	47	26	16	36	9	26	33	21	16	230
回収率(%)	95.9	104	94.1	61.0	81.8	96.3	94.3	100	100	88.5

全般的な質問

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)
- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との出会い
D. 友人との出会い E. 課外活動 F. 親からの自立
G. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	23	30	21	32	17	19	2	0
物理科学コース	10	16	9	15	6	7	3	0
化学コース	8	7	4	15	6	7	0	0

生物科学コース	16	20	16	33	15	15	1	0
地球科学コース	4	8	8	6	1	1	1	0
情報科学コース	9	18	16	19	10	9	2	0
応用化学コース	5	19	10	29	11	10	2	0
海洋生命・分子工学コース	9	13	10	4	3	6	0	0
災害科学コース	7	12	8	10	4	5	1	0
合計	91	143	102	163	73	79	12	0
合計(%)	39.6	62.2	44.3	70.9	31.7	34.3	5.2	0.0

○数学コース

- ・バイトの経験，先輩らとの出会い
- ・サークル

○物理科学コース

- ・バイト
- ・お酒の…
- ・部活動

○応用化学コース

- ・社会人との出会い
- ・バイト

○災害科学コース

- ・アルバイト

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との関係
D. 友人との関係 E. 課外活動 F. 親からの自立
G. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	10	1	2	4	15	8	9	9
物理科学コース	5	1	0	1	7	4	2	7
化学コース	5	2	1	1	5	2	0	2
生物科学コース	1	1	6	2	7	7	3	6
地球科学コース	2	0	0	0	2	1	1	3
情報科学コース	2	0	0	1	2	4	7	11
応用化学コース	8	4	2	0	15	5	2	3
海洋生命・分子工学コース	1	4	4	3	6	2	2	3
災害科学コース	2	3	1	1	6	4	1	3

合計	36	16	16	13	65	37	27	47
合計(%)	15.7	7.0	7.0	5.7	28.3	16.1	11.7	20.4

○数学コース

・特になし（8人）

・娯楽

○物理科学コース

・特になし（2人）

○生物科学コース

・特になし（3人）

○情報科学コース

・特になし（4人）

・大学の設備

・ディスカッションする授業や場が欲しい。

・コミュニケーション能力の向上

○応用化学コース

・特になし（2人）

○海洋生命・分子工学コース

・特になし（2人）

○災害科学コース

・特になし

4. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

A. 満足できた

B. ほぼ満足できた

C. あまり満足できなかった

D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	17	27	3	0	0
物理科学コース	8	16	2	0	0
化学コース	3	9	3	1	0
生物科学コース	6	23	7	0	0
地球科学コース	3	4	2	0	0
情報科学コース	9	15	2	0	0
応用化学コース	2	18	10	3	0
海洋生命・分子工学コース	9	8	4	0	0
災害科学コース	7	9	0	0	0
合計	64	129	33	4	0
合計(%)	27.8	56.1	14.3	1.7	0.0

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	18	23	6	0	0
物理科学コース	8	10	4	1	3
化学コース	5	10	1	0	0
生物科学コース	3	14	14	4	1
地球科学コース	0	6	1	0	2
情報科学コース	8	10	6	1	1
応用化学コース	9	10	10	1	3
海洋生命・分子工学コース	3	13	3	2	0
災害科学コース	3	8	5	0	0
合計	57	104	50	9	10
合計(%)	24.8	45.2	21.7	3.9	4.3

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

- A. ある B. ない

	A	B	無回答
数学コース	14	33	0
物理科学コース	9	17	0
化学コース	8	8	0
生物科学コース	17	19	0
地球科学コース	1	8	0
情報科学コース	6	20	0
応用化学コース	11	22	0
海洋生命・分子工学コース	4	17	0
災害科学コース	4	12	0
合計	74	156	0
合計(%)	32.2	67.8	0.0

7. 6で「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

	A	B	C	D	E	F	G	無回答
数学コース	30	29	4	16	8	8	1	0
物理科学コース	13	16	5	6	4	3	0	0
化学コース	11	7	3	5	1	1	0	0
生物科学コース	19	25	7	14	4	4	3	0
地球科学コース	5	7	4	4	3	0	0	0
情報科学コース	14	11	2	7	4	4	1	0
応用化学コース	18	18	6	8	6	3	0	0
海洋生命・分子工学コース	13	13	3	5	1	4	0	0
災害科学コース	9	6	1	4	1	3	1	0
合計	132	132	35	69	32	30	6	0
合計(%)	57.4	57.4	15.2	30.0	13.9	13.0	2.6	0.0

○数学コース

- ・興味のある分野だったのでおもしろみはあった。

○生物科学コース

- ・内容がおもしろかった。
- ・映像を見る授業等退屈しなかった。
- ・授業内容に興味があった。

○情報科学コース

- ・おもしろかった。

○災害科学コース

- ・教授の人間性と情熱

10. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30～39 C. 20～29 D. 10～19 E. 9 以下

	A	B	C	D	E	無回答
数学コース	1	0	4	14	28	0
物理科学コース	0	0	3	7	16	0
化学コース	1	1	3	5	6	0
生物科学コース	1	2	3	9	21	0
地球科学コース	1	1	1	1	4	1
情報科学コース	0	0	3	7	15	1
応用化学コース	2	2	9	8	12	0
海洋生命・分子工学コース	2	0	2	7	10	0
災害科学コース	0	0	1	4	11	0

合計	8	6	29	62	123	2
合計(%)	3.5	2.6	12.6	27.0	53.5	0.9

11. 満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 実力がつかなかった
B. 不親切でわかり難い授業だった
C. 教材の工夫が見られなかった
D. 教員の熱意が感じられなかった
E. 一方的な押し付け授業だった
F. 内容が古すぎた
G. 内容が体系的でなく断片的だった
H. その他 ()

	A	B	C	D	E	F	G	H	無回答
数学コース	20	19	3	8	14	1	6	2	1
物理科学コース	5	15	2	5	8	0	1	2	2
化学コース	5	12	5	4	7	0	0	1	0
生物科学コース	7	16	7	6	12	2	2	5	1
地球科学コース	3	3	0	5	3	0	0	0	0
情報科学コース	6	9	5	4	5	0	0	5	2
応用化学コース	14	20	6	9	8	0	10	0	0
海洋生命・分子工学コース	7	8	3	3	5	1	2	0	1
災害科学コース	5	4	1	1	4	1	3	1	0
合計	72	106	32	45	66	5	24	16	7
合計(%)	31.3	46.1	13.9	19.6	28.7	2.2	10.4	7.0	3.0

○数学コース

- ・特になし (2人)

○物理科学コース

- ・自分にやる気がなかった。
- ・実力がついたか自分自身は分からない。

○化学コース

- ・差別をうけた (男女差別) …特に成績

○生物科学コース

- ・特になし (2人)
- ・授業内容とテストが関連したものかわからない点があった。
- ・興味がなかった。
- ・あまり興味を持てなかった。

○情報科学コース

- ・特になし (3人)
- ・板書が多すぎて追いつくのが大変

・興味が持てなかった。

○災害科学コース

・難しく理解出来ないものだった。

【標準履修モデル】

12. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

A. 配置されていた

B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった

D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	18	27	2	0	0
物理科学コース	13	12	1	0	0
化学コース	8	7	1	0	0
生物科学コース	14	22	0	0	0
地球科学コース	3	5	0	1	0
情報科学コース	10	15	1	0	0
応用化学コース	9	21	3	0	0
海洋生命・分子工学コース	5	16	0	0	0
災害科学コース	3	10	3	0	0
合計	83	135	11	1	0
合計(%)	36.1	58.7	4.8	0.4	0.0

13. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

A. 配置されていた

B. 概ね配置されていた

C. あまり配置されていなかった

D. 配置されていなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	17	25	2	0	3
物理科学コース	10	16	0	0	0
化学コース	5	9	2	0	0
生物科学コース	8	24	1	0	3
地球科学コース	5	2	2	0	0
情報科学コース	11	15	0	0	0
応用化学コース	6	26	0	1	0
海洋生命・分子工学コース	7	13	1	0	0
災害科学コース	4	9	2	1	0
合計	73	139	10	2	6
合計(%)	31.7	60.4	4.3	0.9	2.6

14. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. あまり合致していなかった D. 合致していなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	14	27	3	0	3
物理科学コース	10	15	1	0	0
化学コース	2	11	3	0	0
生物科学コース	5	27	1	0	3
地球科学コース	5	3	1	0	0
情報科学コース	5	21	0	0	0
応用化学コース	3	28	2	0	0
海洋生命・分子工学コース	7	13	1	0	0
災害科学コース	4	12	0	0	0
合計	55	157	12	0	6
合計(%)	23.9	68.3	5.2	0.0	2.6

【専門科目への要望】

15. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	5	15	23	1	3
物理科学コース	1	10	14	1	0
化学コース	1	9	5	1	0
生物科学コース	0	16	17	1	2
地球科学コース	4	3	2	0	0
情報科学コース	5	14	7	0	0
応用化学コース	4	16	12	1	0
海洋生命・分子工学コース	3	15	3	0	0
災害科学コース	1	8	7	0	0
合計	24	106	90	5	5
合計(%)	10.4	46.1	39.1	2.2	2.2

16. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	1	16	21	6	3
物理科学コース	2	10	12	2	0
化学コース	2	2	9	3	0
生物科学コース	0	8	22	4	2
地球科学コース	0	4	1	4	0
情報科学コース	1	3	17	5	0
応用化学コース	1	6	24	2	0
海洋生命・分子工学コース	3	6	10	2	0
災害科学コース	1	2	13	0	0
合計	11	57	129	28	5
合計(%)	4.8	24.8	56.1	12.2	2.2

17. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	5	12	14	13	3
物理科学コース	6	9	8	3	0
化学コース	6	6	3	1	0
生物科学コース	9	14	9	2	2
地球科学コース	5	3	1	0	0
情報科学コース	4	7	10	5	0
応用化学コース	3	18	9	3	0
海洋生命・分子工学コース	9	5	7	0	0
災害科学コース	4	7	3	2	0
合計	51	81	64	29	5
合計(%)	22.2	35.2	27.8	12.6	2.2

18. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. あまりそう思わない D. 全く思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	10	8	20	6	3
物理科学コース	4	8	10	4	0
化学コース	7	2	7	0	0
生物科学コース	8	9	15	2	2
地球科学コース	3	3	1	2	0
情報科学コース	8	7	9	2	0
応用化学コース	8	10	13	2	0
海洋生命・分子工学コース	6	5	10	0	0
災害科学コース	2	5	8	1	0
合計	56	57	93	19	5
合計(%)	24.3	24.8	40.4	8.3	2.2

19. 18 で A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

○数学コース

- ・世の中にはこういった仕事や働き方があるかなど
- ・学んでいる内容がどのように利用されているか。
- ・発表の場を増やす。
- ・コミュニケーション力を高めるための要素が組み込まれている授業
- ・数学的なことを用いることでどのような分野に貢献できるか、または日常的な生活において数学の関わるものがどれだけあるかを知りたい。
- ・社会人マナー等の授業が欲しかった。(手紙, 言葉遣い)
- ・考える力
- ・時事問題について知る考えること。
- ・社会に出たらこういう能力が必要である, 求められるということを教えてほしいと思います。
- ・自分で考える力を身につけること。
- ・将来地域の活性に役立つこと。
- ・情報処理能力 (主にパソコン等)
- ・講義を取ることで, 獲得に近づくような資格があるような場所に取得に関するアドバイスを組み込むことで就職に有利だったり会社で使うようなことがあったりと何かしら社会に出て役立つのではと考えます。
- ・生活の内でのどのように数学を活かせるか? や実生活に活かせるようなことやってほしい。
- ・臨機応変に課題へ取り組めること。少しのことでは諦めない根性

○物理科学コース

- ・わかりません
- ・目上の人との接し方

- ・ 報連相
- ・ 講義内容にもよりますが、専門科目の講義内容が就活で全く使わなかったのでは社会に出て役立つ内容というより就活でつかえる内容があればと思いました。
- ・ 具体的な仕事と結びつけた授業があれば、社会へのイメージもしやすいから。
- ・ コミュニケーション能力やマナー講座など
- ・ 大きくくりにして、コミュニケーション能力を育成できるプレゼン授業とかをもっと増やしていいと感じた。
- ・ 今学んでいることがどのように社会とつながっているのか知りたい。
- ・ 社会に出て何が役立つか、社会に出ていないのでそれを教えてほしい。

○化学コース

- ・ 化学の仕事を行うにあたっては、実験技術の知識を
- ・ モチベーションを高めたり、精神的につらくなったときの対処法
- ・ 人前で発表や説明をすること。
- ・ 専門知識が社会でどこに役立つかというのもセットで教えてほしい。
- ・ 成績で60点とれば合格などではなく、実践的な力をしっかりと評価してほしい。(今のままでは学士が取れるだけになっている)
- ・ 卒業研究、社会での活動に不可欠なエクセル、ワード等の能力をよりつけられるように、実践的な授業を取り入れる。(実際に計算、タイピングをさせる)
- ・ 履修して出席が足りていればほぼ単位がでるような授業が見受けられるが、そのような授業を改善して社会の厳しさ(ルールに対する)を教えるだけでも十分に意味があると思われる。
- ・ 冠婚葬祭のマナー、パソコンについての授業(もっと高度なもの)やメールマナー等が選択でも一般教養でもいいのであればいいと思う。
- ・ より専門的な授業を増やしてもよいのではないかと感じた。

○生物科学コース

- ・ 授業で学んでいることが社会でどう活用されているか知りたい。
- ・ 知見が広がる授業、視野が広がる授業、経験体験型の授業
- ・ 先輩や後輩と目標を達成するために協力する能力を身につけること。
- ・ ハラスメント等の問題にぶつかった際、どのような機関に相談すればいいのか。
- ・ 保障等あまり今まで関わる機会がなかったことに対する知識
- ・ マナー等の社会人としての知識
- ・ インターンなどの単位化
- ・ word や Excel を利用する授業があると良いと思う。
- ・ 実際に社会のどのようなところに盛り込まれているか。
- ・ 現在盛んな研究はどのようなものであるか。
- ・ マナー、敬語、電話対応、税金、保険等
- ・ 社会人マナー、人前での話し方や発表の練習、言葉使い
- ・ 課題を複数人で考察しプレゼン

- ・課題解決能力，知識の使い方
- ・対話の機会などコミュニケーション能力の向上
- ・コミュニケーション能力，メモ能力
- ・専門的な事柄でも広く理解してもらう伝え方
- ・グループディスカッション

○地球科学コース

- ・自分で手を動かす実践的な内容の授業を増やし，その課題について先生方にできれば丁寧な評価，指導してほしい。（卒論の開始時期を早めても良いと思います。）
- ・将来を見据えた知識や技量，技術をしっかり自己判断」できるように
- ・機器の使用方法や，時々でいいので企業が実際に行う調査方法，分析方法を実践的に行ってみたい。基礎研究や思考力がどう重要でどのような場面で適応できるのか分かるのではないかと思う。

○情報科学コース

- ・グループディスカッション
- ・実際に，最前線で働いている人に話を聞く。もしくは技術的なことを習う。
- ・仕事に必要な知識
- ・専門的な知識
- ・社会で実際に行かれている事務やインターンシップや実際にビジネスをしてみる。
- ・専門科目で個々人の志望にあった様々な分野の授業を選択すること。例えば，CG や文書系，CAD の様なもの。
- ・コミュニケーション能力に関する講義
- ・資格を取る際に重要なこと。
- ・言語学習（プログラム）の授業を増やしてほしい。
- ・ビジネスマナー
- ・仕事
- ・ビジネスに関する授業
- ・具体的な仕事の内容

○応用化学コース

- ・基礎的なことだけでなく，応用的な問題も試験に追加してほしい。
- ・インターンを授業に組み込む等
- ・マナー講座
- ・研究職等の専門分野での就職を考えている学生の為に，様々な測定機器を使う機会がもっと増えればと思う。
- ・ひとつの課題・問題に対してグループ毎に話し合い，解決する能力
- ・一般教養
- ・人間関係
- ・今，学んでいることが社会でどのように使用されているかももう少し，分かり易い形で教えてもらいたかった。

- ・化学系の分野だけでなく、もう少し広い視野をもつこと。
- ・コミュニケーション能力
- ・グループワーク、コミュニケーション力を高められる授業
- ・PCの操作、Excelの図の作り方など、基本的なことは1年次の情報処理で学んだが、もっと専門的な知識やきれいな図の作り方を教えてほしい。
- ・仕事と直結しやすいこと（一般的な常識）など

○海洋生命・分子工学コース

- ・マナー
- ・マナーなど
- ・コミュニケーション能力
- ・専門的な内容だけでなく、身の回りのことと絡めた内容
- ・生活と関連していること。
- ・英語力の向上

○災害科学コース

- ・人の役に立つこと。
- ・地震に対しての対策や自分の身の回りで起こる災害についての防災方法など
- ・研究を続けたいです。社会の進歩を押したいです。
- ・マナー
- ・「経済か政治」学問として学ぶのではなく今日本や世界では何が起き、どういう議論がなされているのかについて知る機会がほしい。そして考え、卒業後にどんな職業に就きたいかを考えさせられるような講義がほしい。
- ・経営者や成功者を招き経験や心の持ち方等を語ってもらい自己啓発したい。

【成績評価】

20. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	13	24	10	0	0
物理科学コース	9	14	3	0	0
化学コース	5	5	6	0	0
生物科学コース	9	25	2	0	0
地球科学コース	7	2	0	0	0
情報科学コース	8	17	1	0	0
応用化学コース	10	16	6	1	0
海洋生命・分子工学コース	4	13	3	0	1
災害科学コース	3	11	1	0	1

合計	68	127	32	1	2
合計(%)	29.6	55.2	13.9	0.4	0.9

【授業改革】

21. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

	A	B	C	D	無回答
数学コース	18	25	4	0	0
物理科学コース	10	15	1	0	0
化学コース	6	9	1	0	0
生物科学コース	10	23	3	0	0
地球科学コース	7	1	1	0	0
情報科学コース	8	16	2	0	0
応用化学コース	12	20	1	0	0
海洋生命・分子工学コース	3	16	1	0	1
災害科学コース	4	10	0	1	1
合計	78	135	14	1	2
合計(%)	33.9	58.7	6.1	0.4	0.9

22. 21 で C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

○数学コース

- ・専門を増やしてほしい。(1 回生, 2 回生がひまなのに 3 回生で急に多くなる)
- ・他コースなどの授業で気軽に受けられるような授業がほしかった。
- ・理学部から 6 単位とか理学部の科目にページがあったが他コースが触るには難しい授業が多くある。
- ・前期と後期で内容はほぼ一緒だがアプローチの仕方が異なるといった講義があればと思います。前期の仕方では単位を落としたが、後期の方では取れたといったチャンスが増えればいいのではと考えました。

○物理科学コース

- ・集中講義, 高知大学以外の大学の教員の方の講義

○生物科学コース

- ・哺乳類や鳥類など比較的大型の動物の生態などをテーマとしたものや恐竜など太古の生物をテーマとしたもの。
- ・選択科目が少なすぎる。(専門) 概論とかとりすぎたものの融通がきかない。

○地球科学コース

・集中で行える実習を増やす。

○情報科学コース

・言語の授業

・専門的で悪くいえば潰しのきかないようなものを、もっと多くしても良いと思う。

○災害科学コース

・必修と選択必修の科目が多すぎる。自由がなく本当に学びたいことを十分に学べない。

全体の科目は多くないがしぼりすぎ。

【アドバイザー教員制度】

23. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

A. 適切であった

B. 概ね適切であった

C. あまり適切でなかった

D. 適切でなかった

	A	B	C	D	無回答
数学コース	38	8	0	1	0
物理科学コース	16	9	1	0	0
化学コース	9	7	0	0	0
生物科学コース	18	16	1	1	0
地球科学コース	11	1	0	0	0
情報科学コース	17	6	0	0	0
応用化学コース	18	13	2	0	0
海洋生命・分子工学コース	12	5	1	1	2
災害科学コース	8	6	1	0	1
合計	147	71	6	3	3
合計(%)	63.9	30.9	2.6	1.3	1.3

24. 総合的に考えて、高知大学理学部で学んでよかったと思いますか。

A. とてもよかったと思う

B. おおむねよかったと思う

C. あまりよかったと思わない

D. よかったと思わない

	A	B	C	D	無回答
数学コース	25	22	0	0	0
物理科学コース	10	15	1	0	0
化学コース	5	10	1	0	0
生物科学コース	21	14	1	0	0
地球科学コース	5	4	0	0	0
情報科学コース	11	15	0	0	0
応用化学コース	11	20	2	0	0
海洋生命・分子工学コース	14	5	1	0	1

災害科学コース	6	8	1	0	1
合計	108	113	7	0	2
合計(%)	47.0	49.1	3.0	0.0	0.9

25. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

○数学コース

- ・数学コースは実験とかはないが研究室のようなものがあればもっと集中して研究できたかもしれません。家には他の誘惑が多すぎるから。
- ・高知大学の禁煙化などをする前に、毎年死者が出ている飲酒の対策をそろそろ立てるべきではないのか。
- ・いろいろなことを学ぶことが出来ました。大変有意義な学生生活を送ることが出来ました。もう少し理学部生に対して教育分野の授業を増やしてほしいと思いました。ありがとうございました。
- ・いい先生ばかりでした。
- ・数学基礎をもっとやってほしい。
- ・情報などの本が少なすぎるので勉強できなかった。
- ・教職の科目で、もう少し専門性のあるものを学びたいと思う授業がありました。
- ・1番思うのは水溜まりの多さ。雨が降るたびに沈む場所（理学部2号館東出入り口前とか）が多すぎて不便である。

○物理科学コース

- ・ありがとうございました。
- ・理学部2号館が暗い。照明を増やしてほしい。
- ・もっと学生同士が主体的に対話し合いながら、更にはコミュニケーション、プレゼン能力を高められる授業をもっと増やしていけたらいいのかなって考える。教養科目含めて、基礎部分の能力育成という意味では大いに充実できる授業が多くて本当に良いと感じている。
- ・〇〇（授業名）の〇〇先生の発言がおかしい。将来の夢をたずねておいてそれは無理だなと、目指している生徒に対して発言していた。教師としてどうなのだろうか。
- ・理学部2号館の講義室のイスや机の劣化はあまりにもひどいと思いました。もう少し修理をしてほしかったです。また、集中講義も「本年度は開講せず」といったものが多く、在学中一度も開講されてないものばかりでそれなら書かなければいいのにと感じました。また、担当教員によって出席や課題の提出状況をクラスを利用して出してくれる人と出してくれない先生で差がひどく、もう少し統一してほしいと感じました。

○化学コース

- ・特になし（2人）
- ・SciFinderは必要だと思う。
- ・良くも悪くもおおらかな印象がある。失敗してしまっても取り返しがつくというメリットがあるが、しっかり学ばなくても卒業できてしまうというメリットがある。

・おおむね満足であるが、一部成績の付け方に明らかに不満のある授業があった。改善がされていないことから、授業の後半で集めているアンケートが活用できていないと思われる。そのような授業をしている先生はすべて学外からの者であり、改善の余地があると思われる。大学の先生方の授業はすべて素晴らしいものでした。

・設備がもう少し良くなればいいのではないかと感じた。

○生物科学コース

・特になし（2人）

・掲示板での重要事項確認ではなく、全て KULAS で統一して確認できるようにしていた良かったです。

・専門科目の選択肢が少ない。オリエンテーションなど（特に教職関連）の連絡は掲示板に紙をはりつけるだけでなく、メールを送ってほしい。

・過去の研究と現在の諸説を教えてくれる先生がいた授業は興味深かったです。

○地球科学コース

・海洋コアセンターへのパイプをもう少ししっかりするべき

・就職室の一部の事務の方が何を質問しても「わかりません」とばかり回答されるので困ってしまいました。

○情報科学コース

・特になし

・地域協働学部だけでなく理学部も地域と密着した授業を増やしたらよいと思う。

・もっとディスカッションをする場が欲しいです。できれば学生と学生で深い話がしたいです。

○応用化学コース

・特になし

・地方であるため、就職活動のアクセスがとても悪い。この点を改善してほしい。

○海洋生命・分子工学コース

・難易度がシラバスに明記されておらず、事前情報もなしに不合格者を多数出す授業が情報学科に存在する。

○災害科学コース

・卒業研究で使う可能性のあるスキル（プログラミング等）に関する授業がもう少ししていただけたらなお良いと思った。

・最後、自分が自分に戻りました。先生や学友のおかげで1番の収穫です。本当に本当にありがとうございました。

・理系の学生は学問に対する意識が文系の学生より高いと思うのでそういう学生は早いうちから専門的に学ばせて、研究室に入ればよい。

・高知大全体として、就活の意識が低すぎるので、何とかしないとまずい。もっと5年後10年後を見据えられるような教育をしないと、公務員と教師志望で溢れてしまう。